

門二  
號4278  
卷2

00

島藏  
川書

島藏  
川書

本朝等鑑童蒙知津卷之地

算鑑童蒙知津卷之地目錄

安永傳語惟正編撰

除乘位附法

初丁

檢地坪誥

三丁

地方反別

三丁

諸角定法

七丁

圓法真率

八丁

地方石盛并諸法

十二丁

坪直

十五丁

川除普請

二十六丁

諸色配分

二十九丁

配分積

三十四丁

差分

三十五丁

盈胸方程

三十六丁

立坪誥

三十八丁

箱之枡積

三十八丁

三益也

三

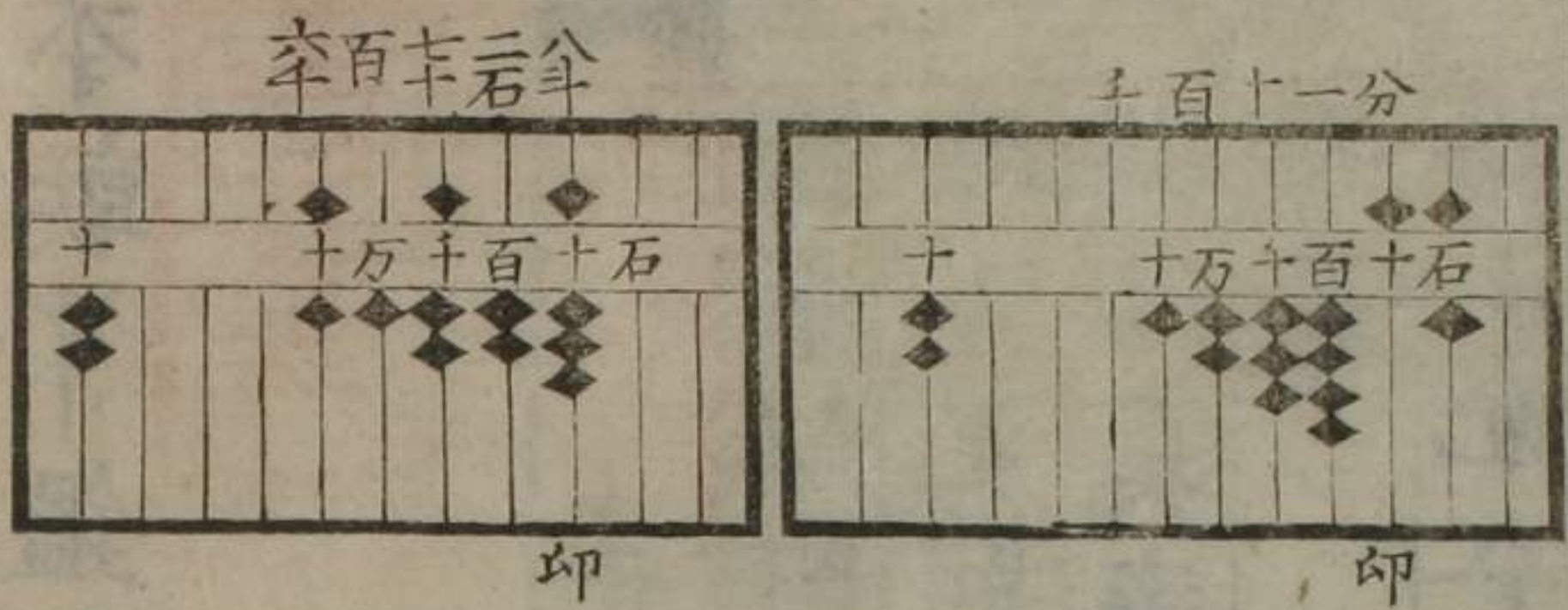
除乘位附之部

割る時ハ法の首座を以て割て後の分の位とす

今米十二万三千四百五十六石と二十人小配  
分むる時ハ一人毎に何程小當ると問

答曰一人毎に米六千七百七十二石八斗

解曰二十を法として左小置十二万三千四  
百五十六石を實として右小置而して實に  
て法の首の十小當る如く印を付但初而て  
例の如く割て見れば桁のかゝら六二七二  
八と成る但後其印の如くを分の位と故小  
其分に當るの國とより上之分一十百千と



負へて即ち千小當るところ小止る故小六千七百七十二石  
八斗と知る乃除位ハ他倣之

今銀一匁と八千人配分する則ハ一人毎に銀何程小當る

と問 答曰一人毎に銀一絲二忽五微

解曰八千を法として左小置一匁を實として右小置而して實  
あて法の頭の千に當るとしてとて付例の如く割りて  
見れば桁のうしろ一二五と成ると其ある一の如くを分の位と  
て分厘毛絲と負へて見れば糸小當る如く數あるゆゑに  
一糸二忽五微と知る

今録米百二十万石六斗有一人一年の扶持米一石八斗の  
積りゆゑて人救何程と問

答曰人救六十六万六千六百六十七人

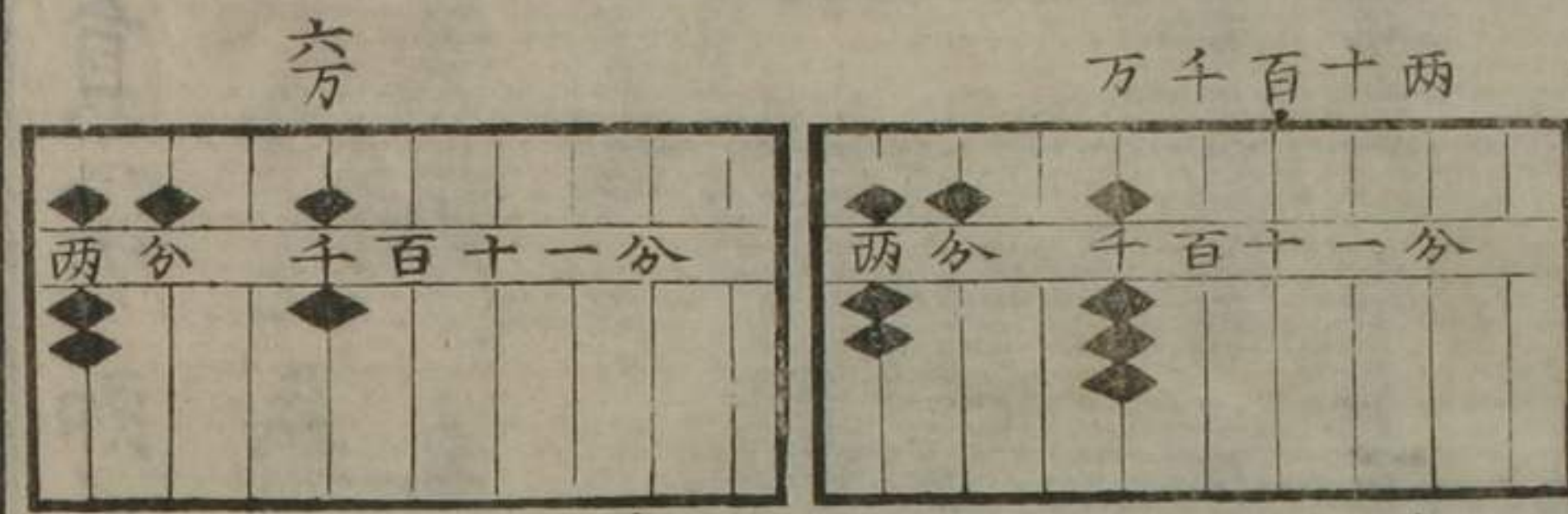
解曰一石八斗を法として左小置百二十万石六斗を實として  
右小置而して法の頭を見れば一石ある故小実あて一石の如く  
印を付而して例の如く割る以下倣上

掛けると則八分の座を以て掛けて右の法の首座とと

今大判八千枚有是を小判に直して小判何程と問

但大判一枚者  
小判七兩二歩也

答曰小判六万兩



解曰七兩二歩を永中して七貫五百文を法  
 として左に置八千枚を實として右に置  
 而して右の分不當るところに印を付但初  
 而して例の如く掛け合されば桁の象ら  
 六と成る但後其印のところを一の位と  
 故ふその一の如より上の一十百千万と直  
 て見ると即ち万ふとすむるゆゑに六万兩と

知る他倣之

除乘相交位之部

今米十石と一粒宛縦小併ぶる時八総長何程と問但米一粒

定ぬ一升の米六万四千八百二十七粒入る積る一間八六尺一町八  
六十間一里八三十六町

答曰

丈數	六万四千八百二十七丈
間數	十萬八千〇四十五間
町數	千八百〇〇四十五町
里數	五十里〇〇四十五里

術曰十石を置一升米敷六万四千八百二十七粒と掛け米十粒を  
 以て割丈數六万四千八百二十七丈と得る是を六尺の割間敷十萬八千〇四十五間  
 十五間と得る又是を六十間めて割町敷千八百〇〇四十五町と得る又  
 是を三十六町めて割里敷五十里〇〇四十五里と得る

詳曰此術ハ前理ハ因て位を取ら乃十石を置六万四千八百二十七粒を掛る則一升を一位と右倣之上

平積歩詰之部

今方田有方面百間積及反別何程と問

答曰 積一万止少

反別三町三反三畝十歩



術曰方面と置是と掛合せ積と得て畝の

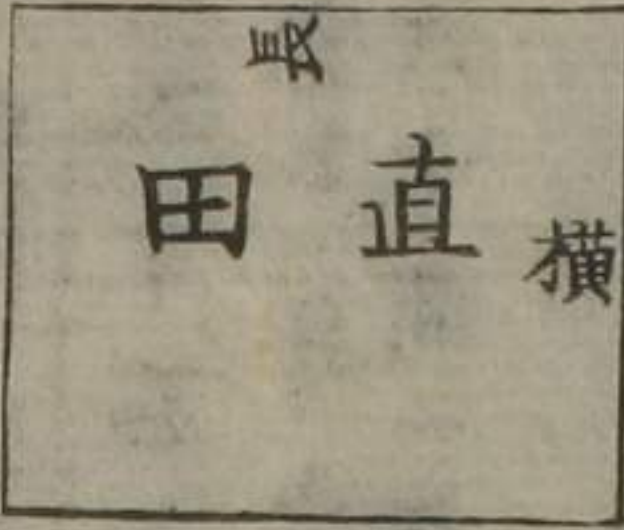
法三十歩を以て割反別と得る

但三十歩以下ハ 割らば一歩と多く

今直田有長八十間横三十間積及反別と問

答曰 積二千四百歩

反別八反



術曰長八十間と置横三十間と掛け積と得三十歩を割知る

評曰反別と得る者何れの形ゆへも積と得て后ち三十歩 少く割る反別と得る故に后ち略之



長二十六間三尺

横二十間

田直

答 積五百三

反一反七畝

術曰長二十六間三尺と置横を掛け積と得る

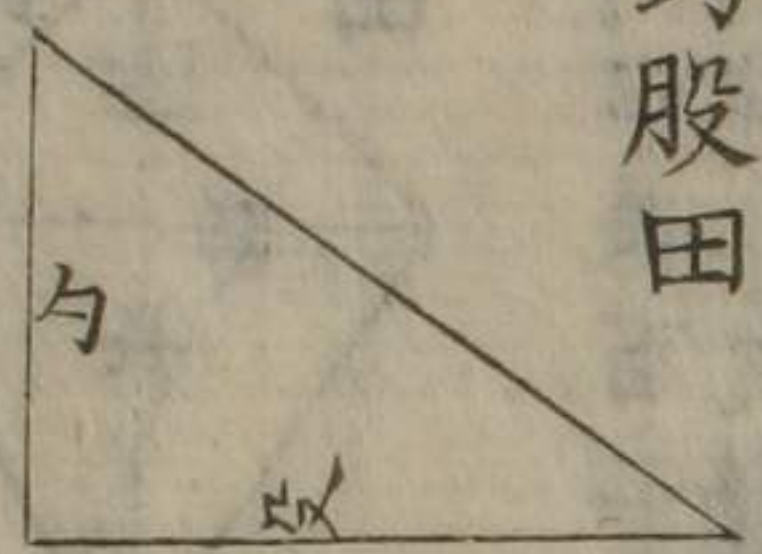
釣股田

釣三十間

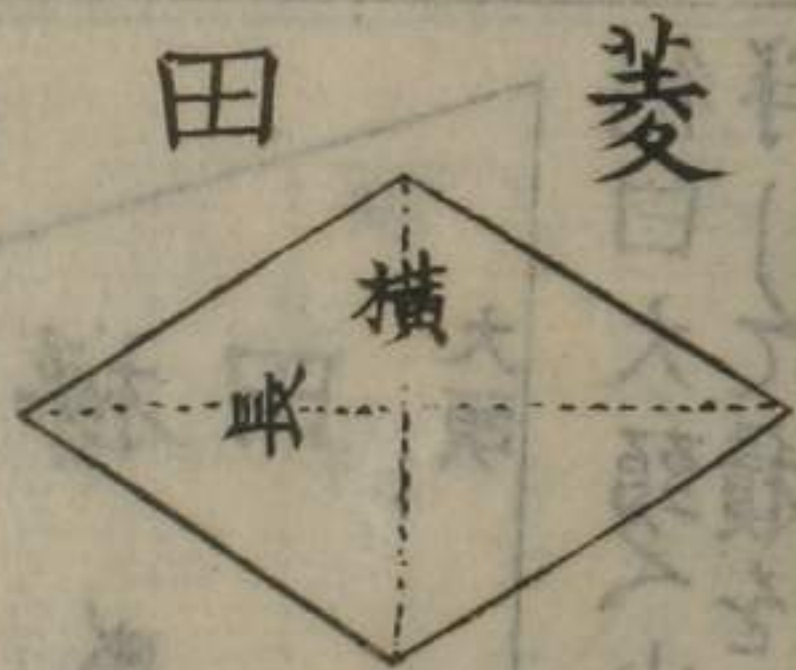
股四十間

答 積六百歩

反二反



術曰釣三十間と置股四十間と掛け折半して得る



長三百間

横二十五間

田菱

答 積二千七百

反一町二

術曰長三百間と置横を掛け折半して積と得る

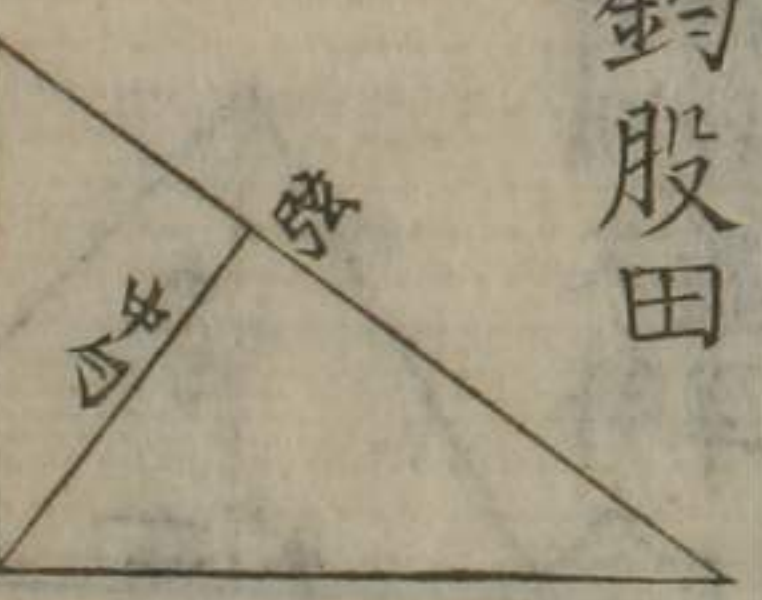
釣股田

弦五十間

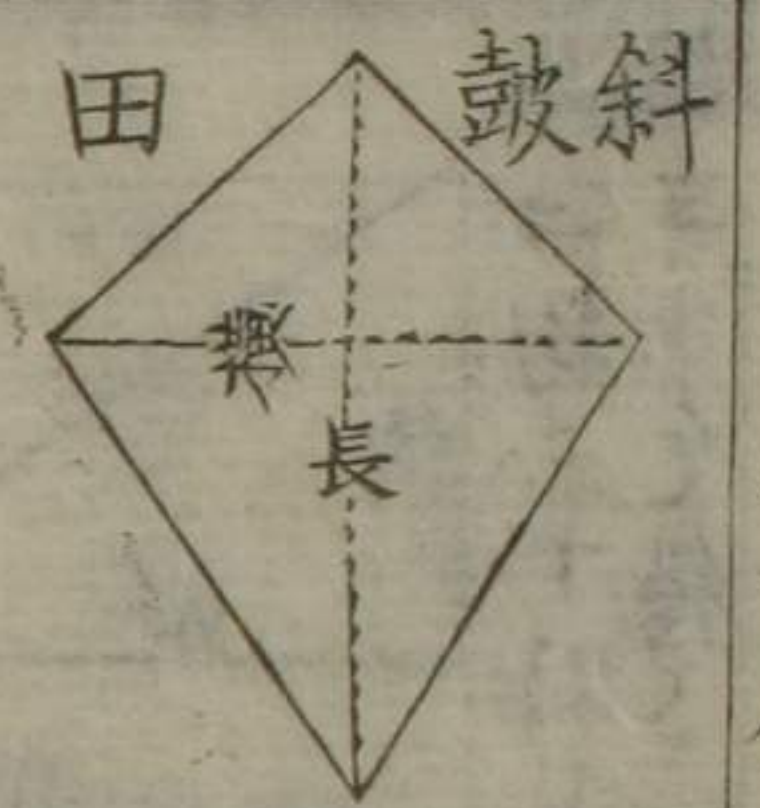
中釣二十四間

答 積六百歩

反二反



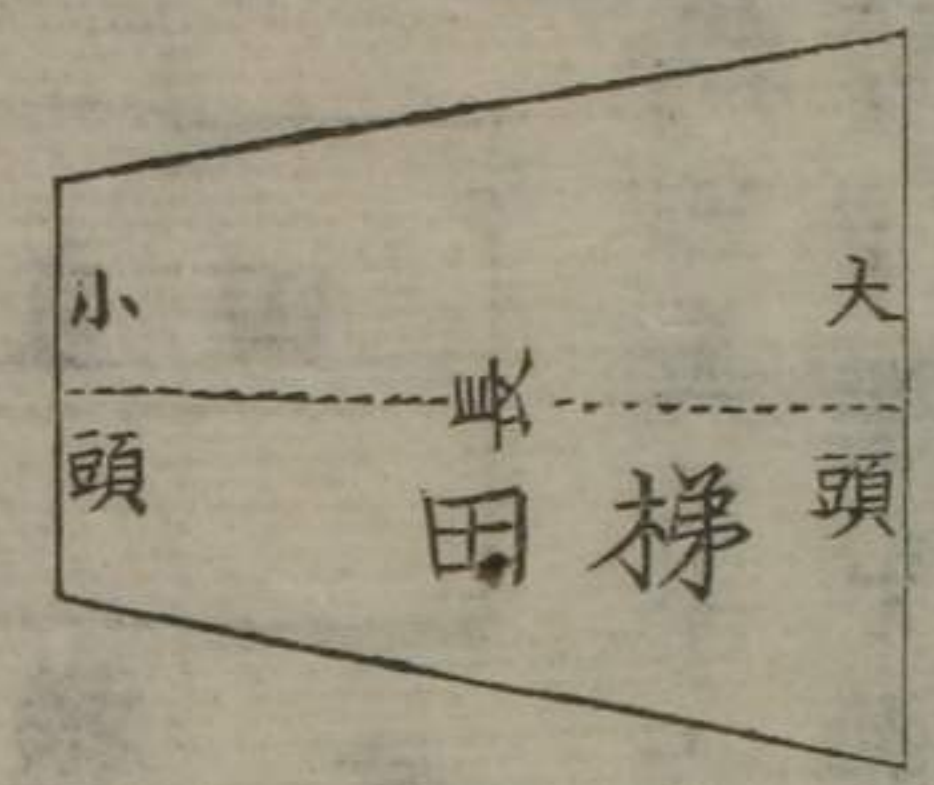
術曰弦五十間と置中勾二十四間と掛け折半して得る



術曰長百二十間を墨横を掛け折半して積を得る

長百二十間  
横二十五間

答 積千五百歩  
反五反



術曰大頭へ小頭を加へ長を掛け折半して積を得る

大頭五十五間  
小頭三十五間  
長百六十二間

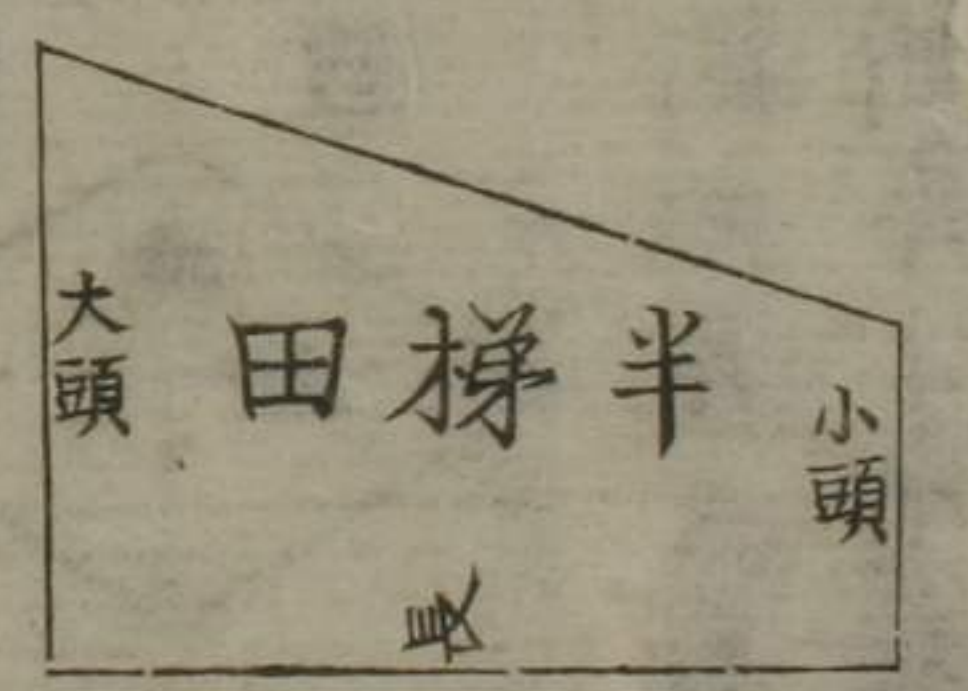
答 積七千二百九十歩  
反三町四反



術曰大斜八十五間を墨中勾を掛け折半して積を得る

大斜八十五間  
中釣六十間

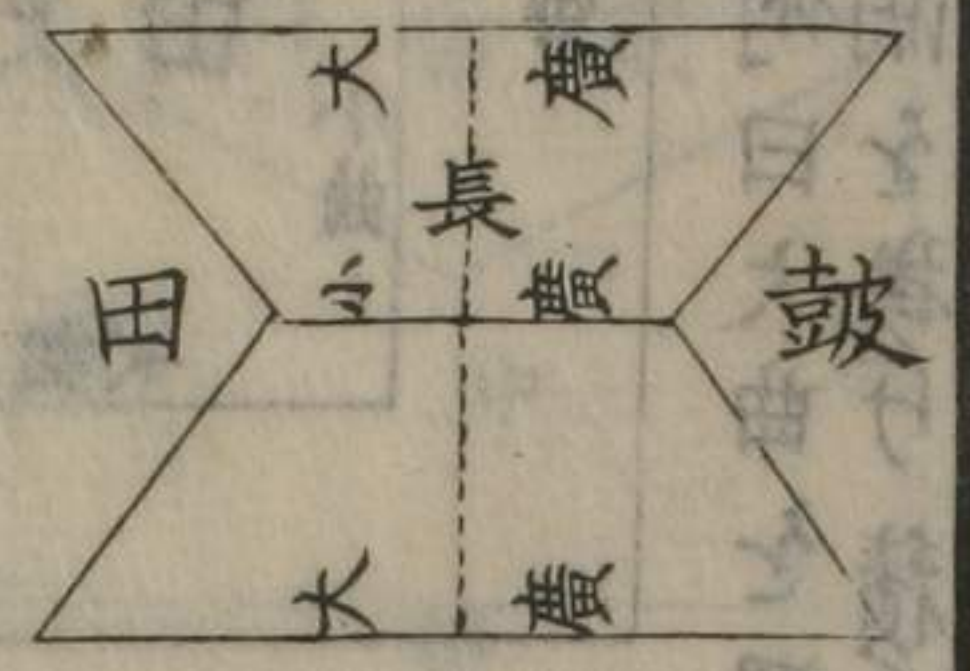
答 積二千五百五十歩  
反八反五畝



術曰大頭へ小頭を加へ長を掛け折半して積を得る

大頭二十二間  
小頭十二間  
長百五十間

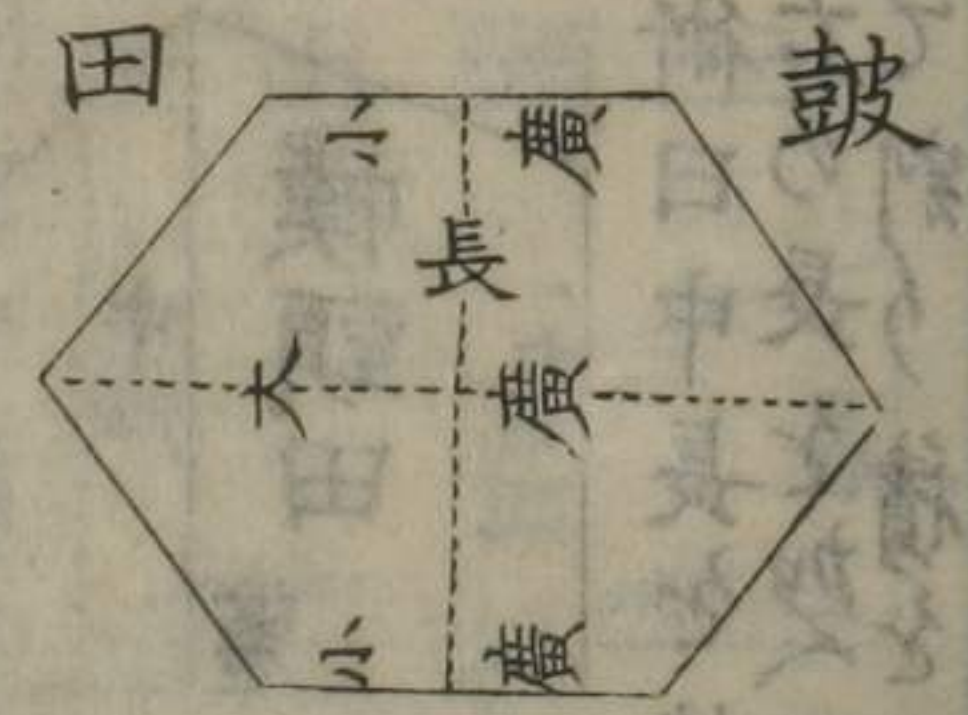
答 積二千五百五十歩  
反八反五畝



術曰大廣小廣和して長を掛け折半して積を得る

大廣八十五間  
小廣六十五間  
長八十四間

答 積六千三百六十歩  
反二町一畝



術曰大廣小廣和して長を掛け折半して積を得る

大廣三十二間  
小廣十六間  
長四十間

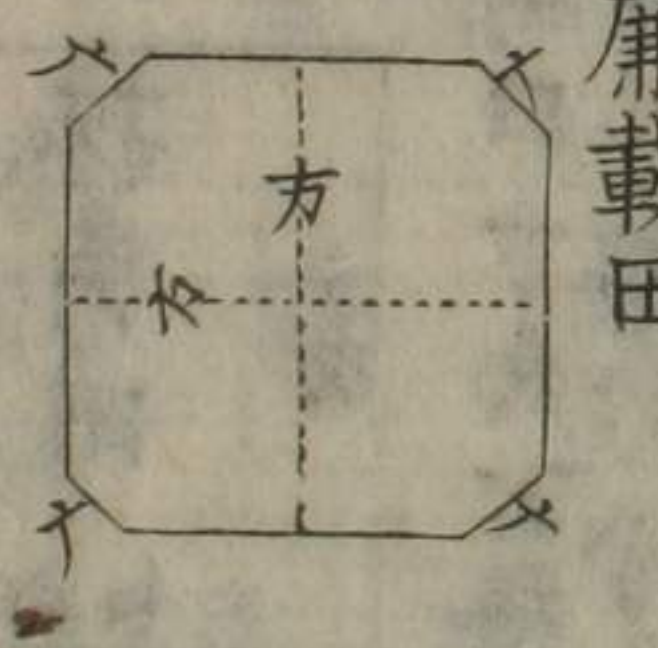
答 積九百六十歩  
反三反二畝



術曰中釣を墨下斜を掛け折半して積を得る

中釣百二十間  
下斜四十間

答 積二千四百歩  
反八反



術曰方を掛け合へ内廉面を掛け合へたる数を引得る

方二十五間  
廉面五間

答 積六百歩  
反二反



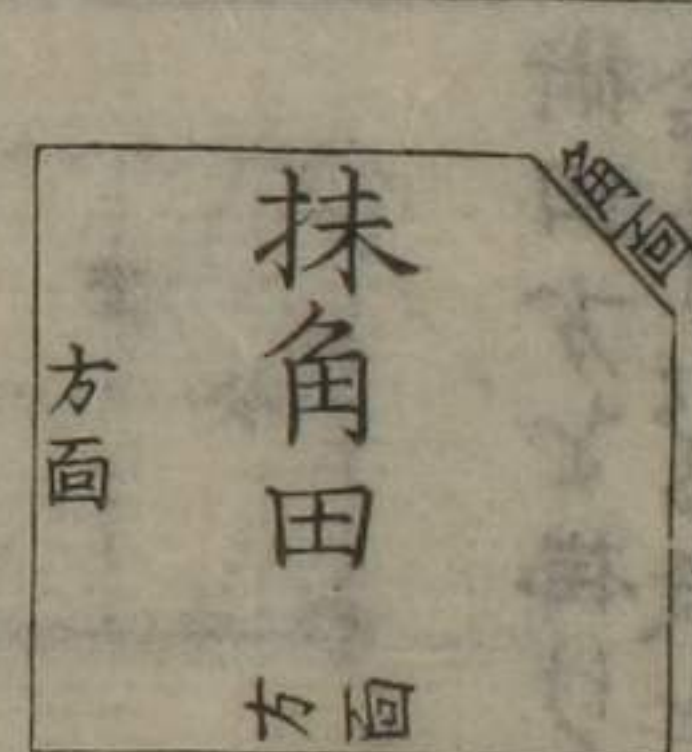
合一折半して積を得る

方斜六十間

答 積千八百歩

反六反

術曰方斜を掛け



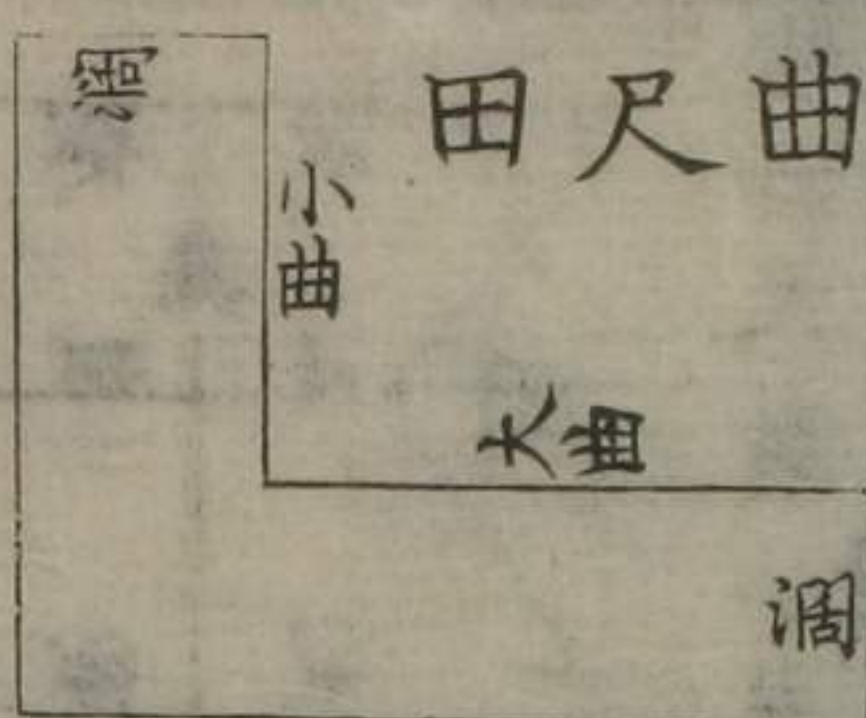
術曰方面を掛け合一内角面半を掛け合一と数を引得る

方面十間

角面二間

答 積九十九歩

反三畝九歩



術曰大曲を置小曲及濶を加濶を掛け積を得る

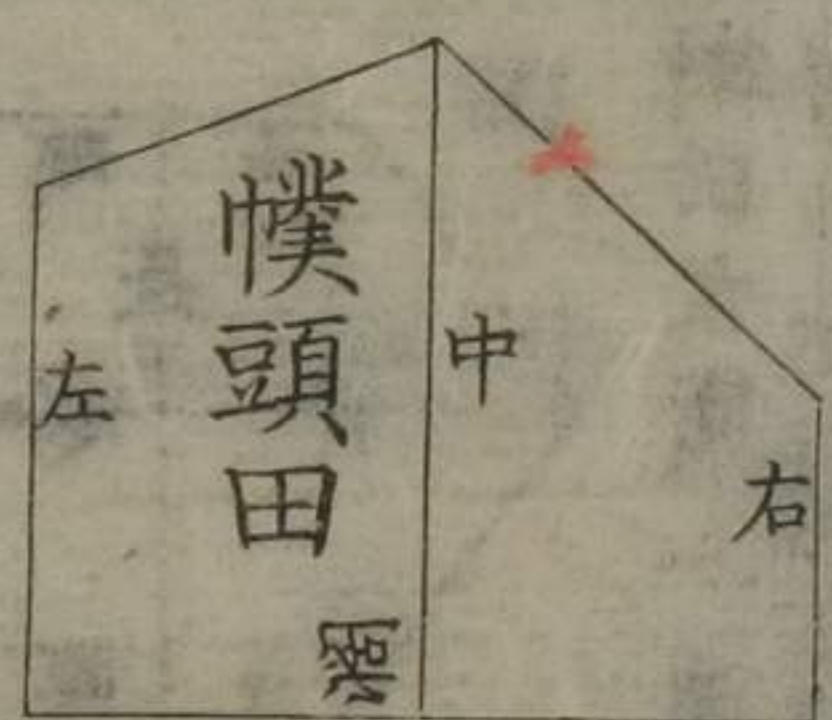
大曲五十三間

小曲五十間

濶五間

答 積五百四十歩

反一反八畝



術曰中長を倍し左長及び右の長を加是に濶を掛け四少を割り積を得る

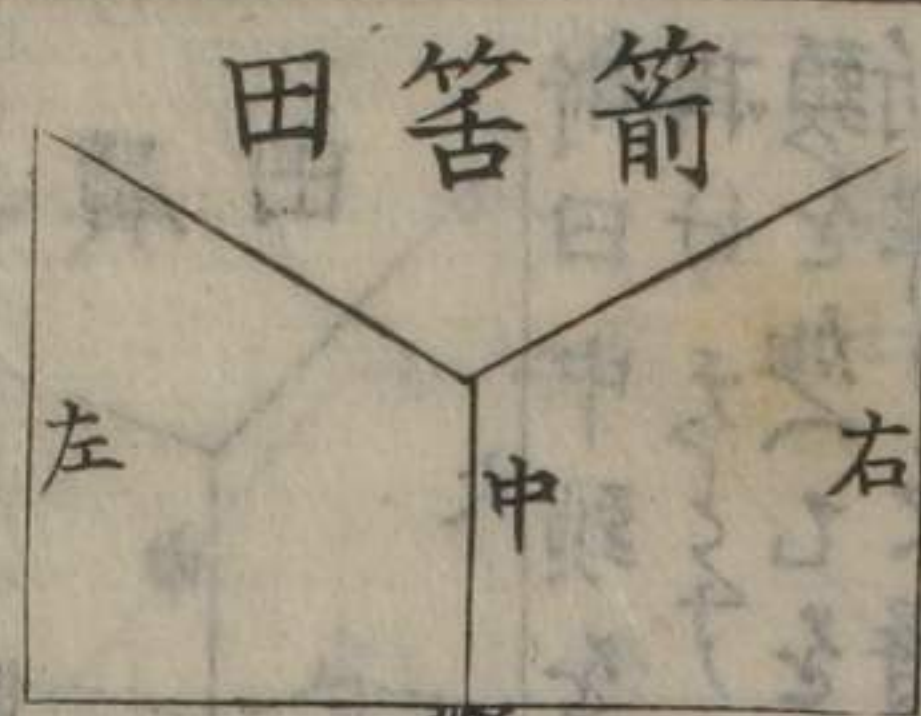
右長二十八間

左長四十間

中長五十間

答 積千二百六

反四反二畝



術曰右長を置中長を加横を掛け折半して積を得る

左右各長二十間

中長十二間

横四十五間

答 積八百十歩

反二反七畝



術曰徑を置弧を掛け折半して積を得る

徑各八十間

弧九十間

答 積三百六

反一町二反

算鑑也



術曰中頭を倍し是に大頭及小頭を加長を掛け四少を割り積を得る

大頭五十間

中頭三十間

長六十間

答 積二千二百

反七反五畝



術曰長を置幅を掛け積を得る

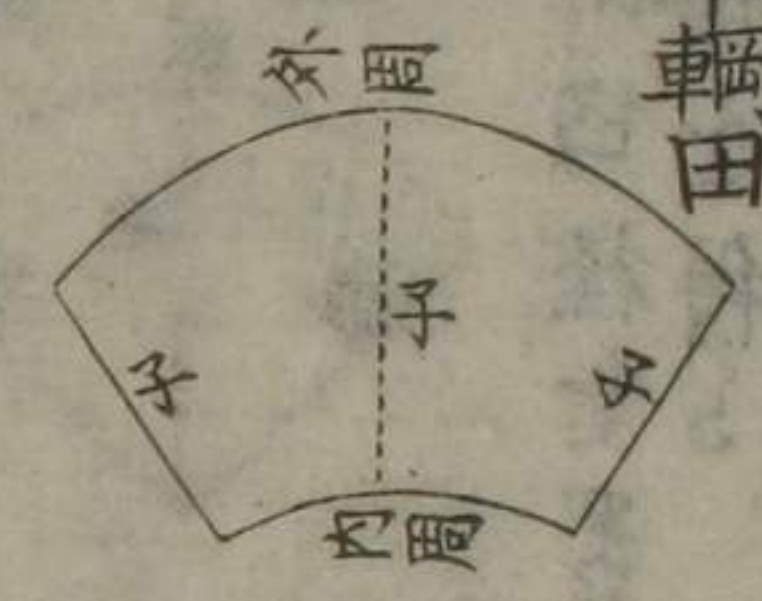
長百五十間

幅五間

答 積七百五十歩

反二反五畝

車輜田

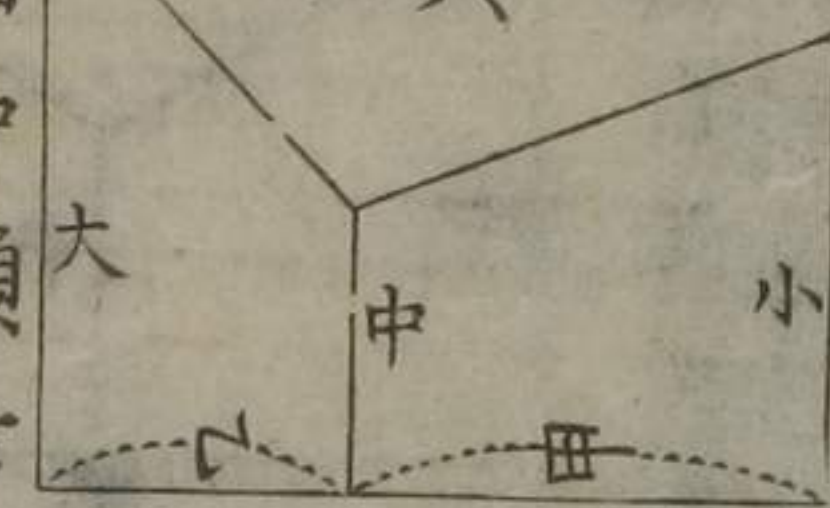


外周八十間  
内周六十間  
子各二十間

答 積千四百步  
反四反六畝  
二十步

術曰外周を墨内周を加へ子を掛け折半して積を得る

三廣田

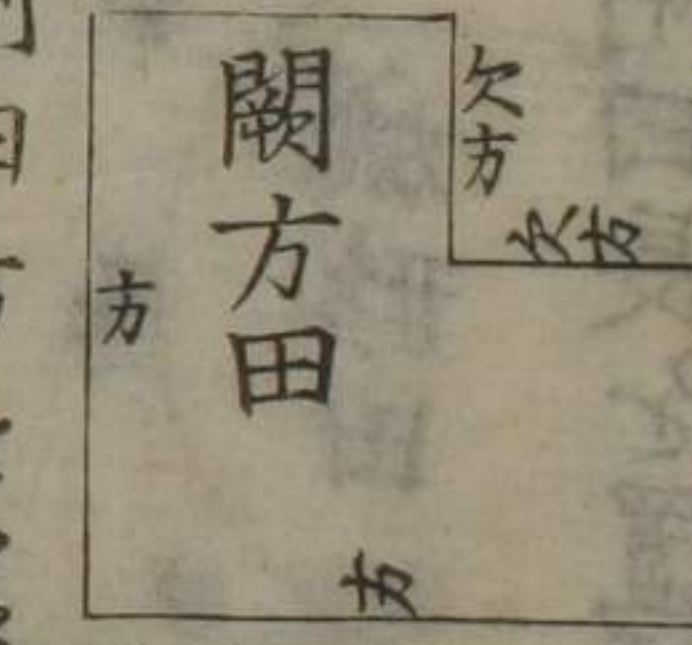


大頭五十間  
中頭四十間  
小頭三十間  
甲四十間  
乙二十間

答 積二千二百步  
反七反三畝  
十步

術曰中頭を墨小頭を加へ甲と掛け天と子別に大頭を墨中頭を加へ乙を掛け是に天を加へ折半して得る

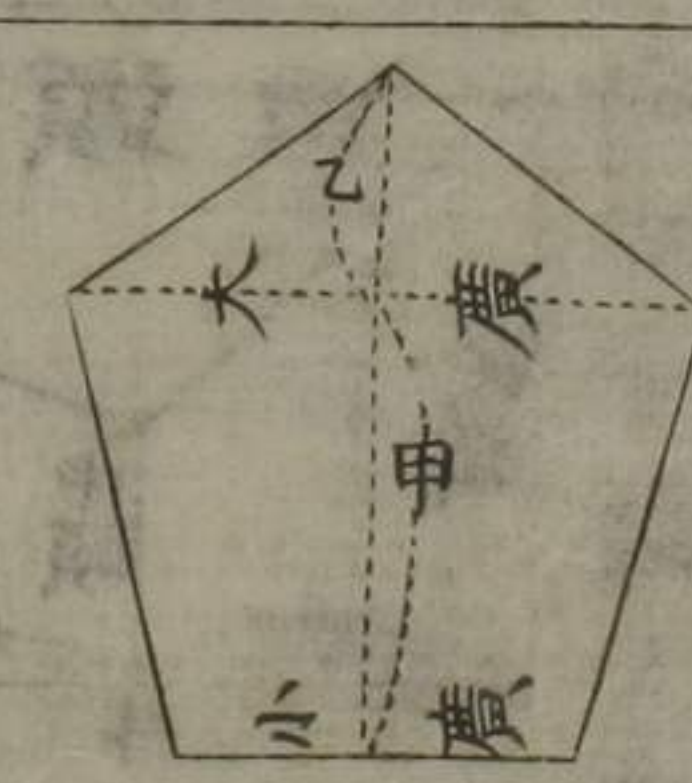
方三十間  
欠方十間



答 積八百步  
反二反六畝  
二十步

術曰方を墨是を掛け合せ内欠方を掛け合せて積を得る

劍形田

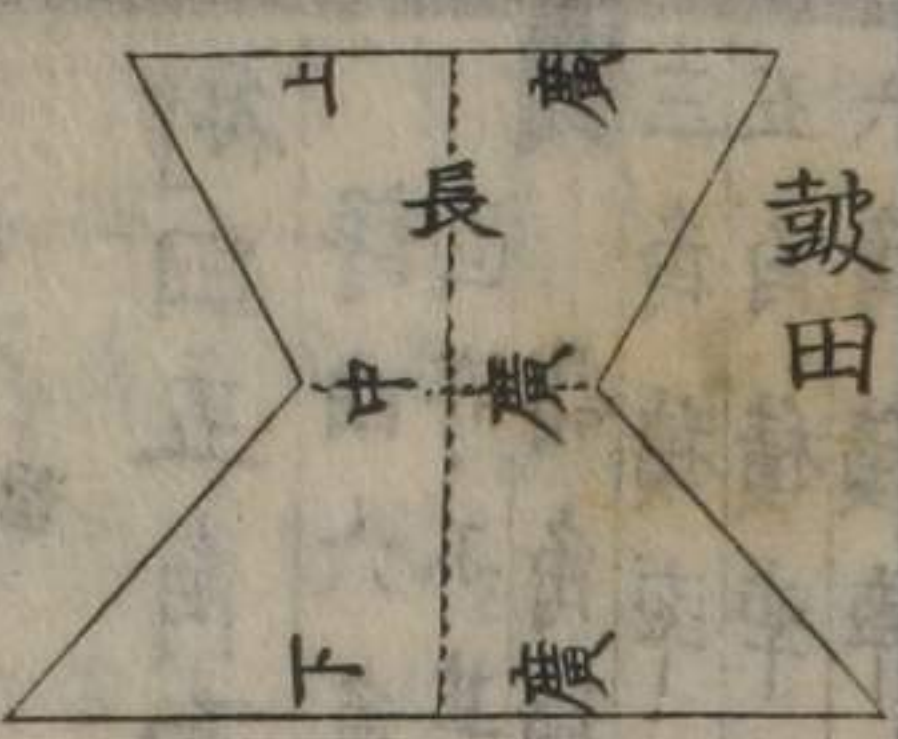


大廣二十四間  
小廣十八間  
甲四十二間  
乙十九間

答 積千百十步  
反三反七畝

術曰甲を墨乙を加へ大廣を掛け是に小廣小因甲を加へ折半して積千百十歩を得る

鼓田

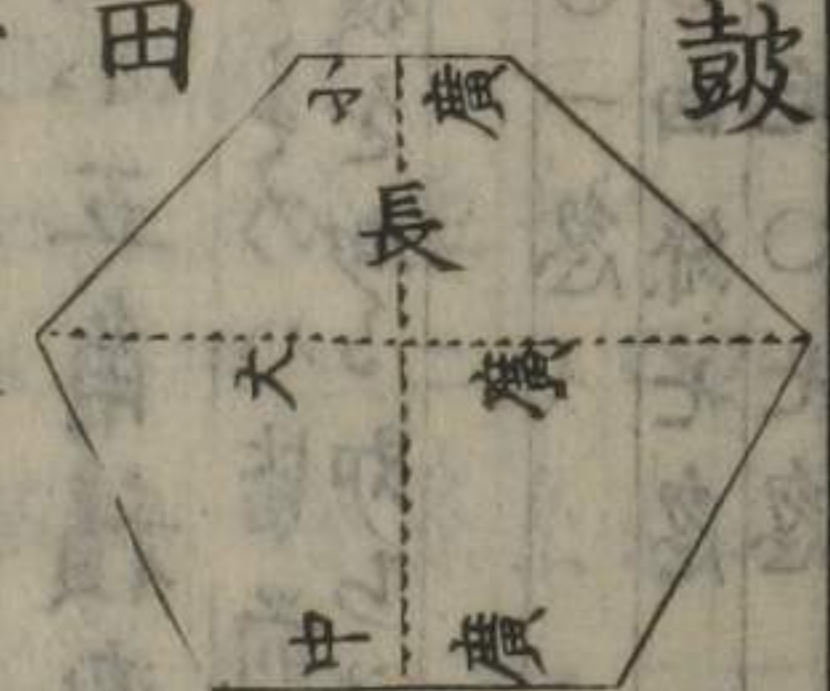


上廣二十九間  
下廣三十八間  
中廣二十一間  
長六十間

答 積千六百五  
反五反五畝

術曰中廣を倍して上廣及下廣を加へ長を掛け四めくり割り積を得る

鼓田

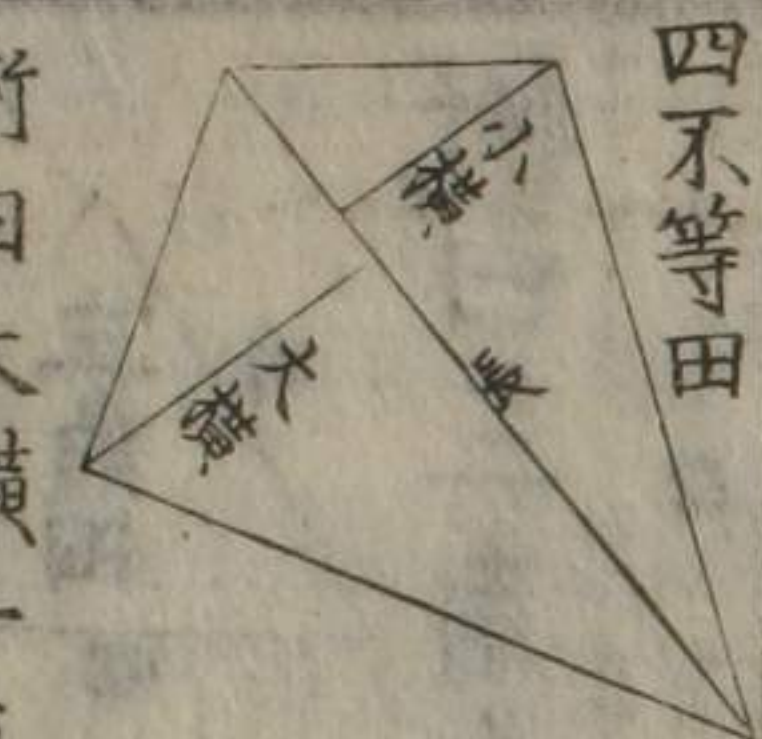


大廣三十七間  
中廣二十七間  
小廣十九間  
長五十間

答 積千五百步  
反五反

術曰大廣を倍し中廣及小廣を加へ長を掛け六十歩と成るを四めくり割り積を得る

四不等田

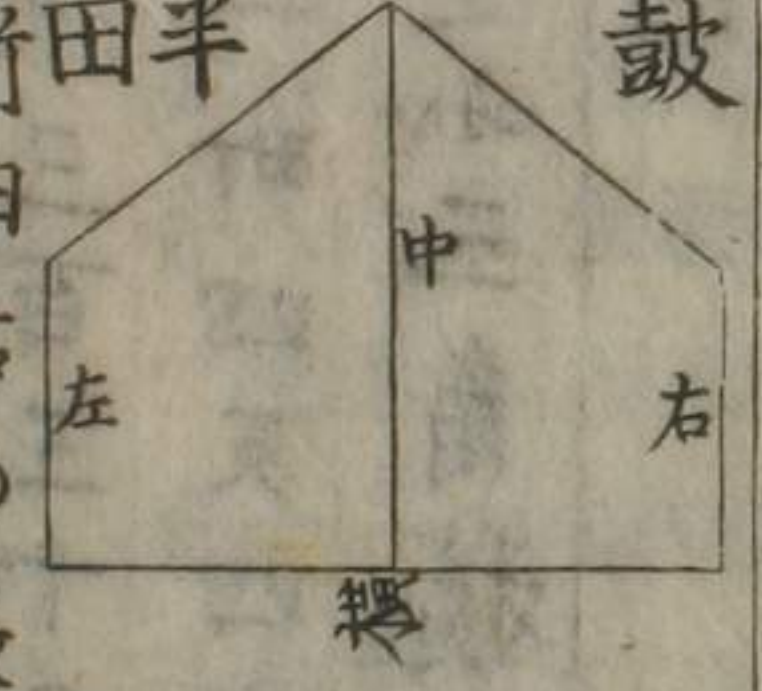


大横十五間  
小横十一間  
長二十八間

答 積三百六十  
反一反二畝  
四歩

術曰大横十五間を墨小横十一間を加へ長を掛け折半して積を得る

鼓田

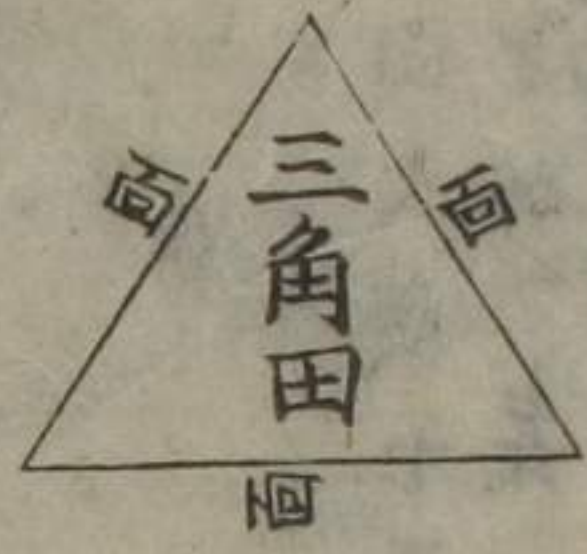


左右各十二間  
中長二十四間  
横四十五間

答 積八百十步  
反二反七畝

術曰右の長を墨中長を加へ横を掛け折半して積を得る





三角面百間

答 積四千三百三十〇步一分  
反別一町四反四畝十步一分

術曰三角面を掛け合せ是三角積率と掛け積を得

五角面百間

答 積一万七千二百〇四步七分  
反別五町七反三畝十四步七分



術曰五角面と掛け合せ是五角積率と掛け積を得

評曰六角以上の積を得るは皆前理不同一乃其角  
面守小其角積率を掛け積を知り即ち積率左の如し

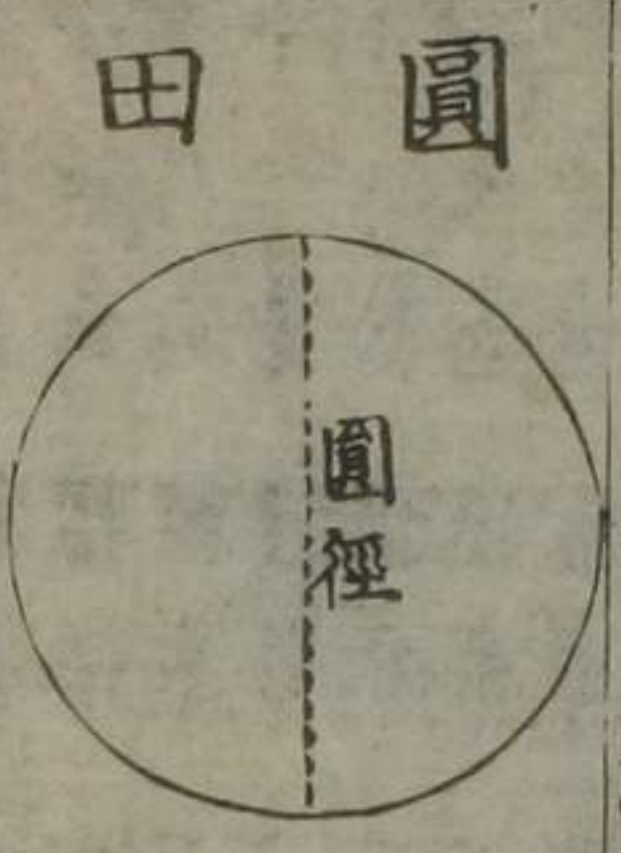
三角積率	四分三厘三毛〇一忽
五角積率	一箇七分二厘〇四絲七忽
六角積率	二箇五分九厘八毛〇七忽

七角積率	三箇六分三厘三毛九糸一忽
八角積率	四箇八分二厘八毛四糸二忽
九角積率	六箇一分八厘一毛八糸二忽
十角積率	七箇六分九厘二毛二糸〇忽
十一角積率	九箇六分五厘八毛三糸九忽
十二角積率	十一箇一分九厘六毛一糸五忽
十三角積率	十三箇一分六厘五毛七糸六忽
十四角積率	十五箇三分三厘四毛五糸〇忽
十五角積率	十七箇六分四厘二毛三糸六忽
十六角積率	二十〇箇一分〇厘九毛三糸五忽
十七角積率	二十二箇七分三厘五毛四糸九忽
十八角積率	二十五箇五分二厘〇毛七糸六忽
十九角積率	二十八箇四分六厘五毛一糸八忽
二十角積率	三十一箇五分六厘八毛七糸五忽
三十角積率	七十一箇三分五厘七毛七糸三忽
四十角積率	百二十七箇〇分六厘二毛〇糸四忽
五十角積率	百九十八箇六分八厘一毛八糸一忽
一百角積率	七百九十五箇五分一厘二毛八糸九忽
圓積率	玉積率之事
圓周真率	三箇一分四一五九二六五三五八九七有奇
圓積真率	七分八釐五三九八一六三三九七四四有奇
玉積真率	五分二釐三五九八七七五五九九八二九有奇

評曰右不記と所の真率ハ各折教長くして初学の者乘除ノ苦心故不各尾教を棄てて畧率を設け是を用ゆ其畧率次不記を然る色ども同ふところの象ち大小小因と

圓周率	三箇一分四厘
圓積率	七分八厘五毛
玉積率	五分二厘三毛六糸

宜しく積率を換く用ゆ故不同ふところの題のし不用ゆるところの積率を記すものなり



術曰圓徑を掛け合せ畧不圓積率と掛け積を得

圓徑百間 乃圓積率七分八厘五毛三糸九忽用ゆ  
 答曰 積七千八百五十三步九分  
 反別二町六反一畝二十三步九分



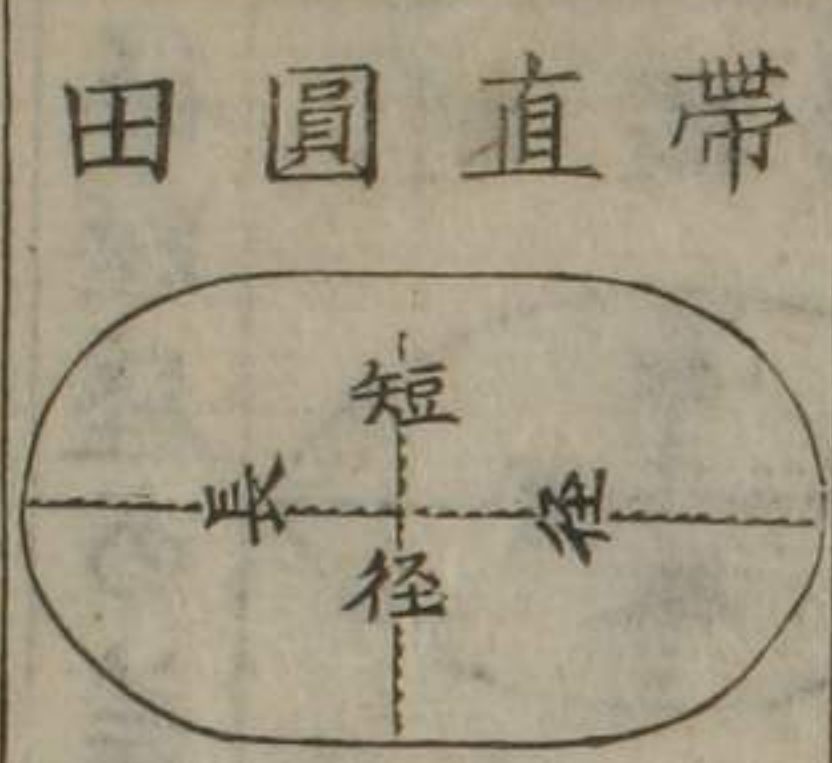
圓徑百間方面五十間 乃圓積率前同

答曰 積五千三百五十三步九分  
 反別一町七反八畝十三步九分



術曰圓徑を掛け合せ是ハ圓積率と掛け此内方面以掛け合せ二千五百歩と成と引余積を得

方面百間虛圓徑五十間 乃圓積率前同  
 答曰 積八千〇三十六步五分二厘五毛  
 反別二町六反七畝二十六步五二五  
 術曰方面を掛け合せ此内圓徑畧不



長徑八十間短徑五十間 乃圓積率前同  
 答曰 積三千四百六十三步四分七五  
 反別一町一反五畝十三步四七五  
 術曰圓積率を置短徑と掛け是ハ長

徑短徑の差を加へ又短徑を掛け積を得る

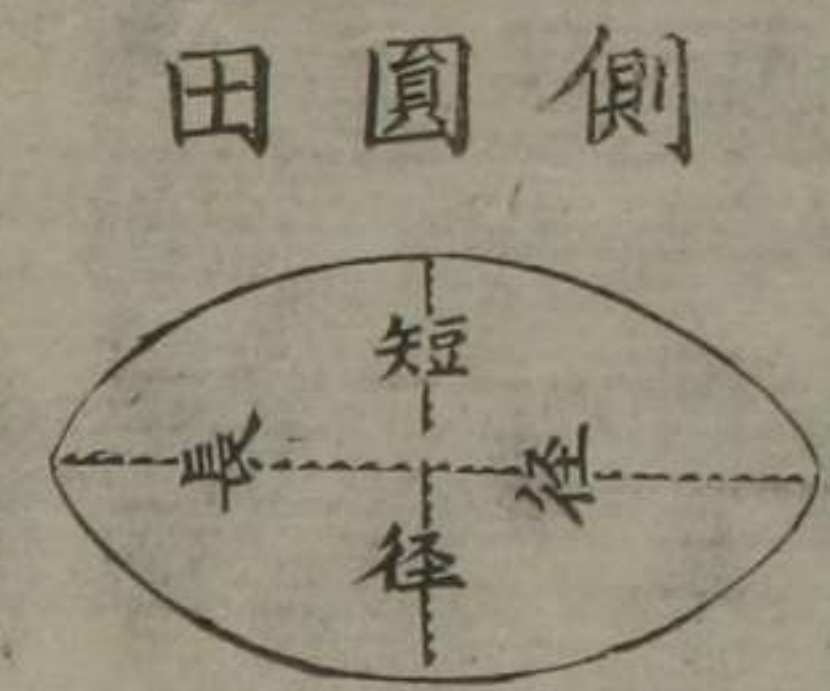
長徑八十間短徑五十間 乃四積率前同

積三千百四十一歩五分六厘

答曰 反別一町〇四畝二十一歩五分六厘

術曰四積率と置長徑を掛け又短

徑を掛け積を得る



周百間 乃四周率三箇一分四一五九用也

積七百九十五歩七分七厘有奇

答曰 反別二反六畝十五歩七七有奇

術曰周を置是を掛け合せ實を

別し周率と置是に四を掛け法とて以實と割積を得る



環田



外周三百間内周二百間 乃四周率前同

積三千九百七十八歩八分餘

答曰 反別一町三反二畝十八歩八分餘

術曰外周を掛け合せ是の内内周を掛け合せたる數と引余りを實とて別し周率と置四を掛け法とて以て實を割り積を得る

弦八十間矢二十間 乃四周率前同

積千百三十〇歩九分七釐二毛四

答曰 反別三反七畝二十〇歩九分七釐二毛四

術曰弦を倍して矢を加へ是を矢と掛け

又圓周率と掛け十除して積を得る



評曰弧背真術者密法に係りて初學者の容易不得べき術に  
あはれ故に前のふくく畧法と用ゆその真術を得る術意  
者左ふ記と

弧積を求む術

術曰別求徑及弧背徑内減矢餘乘弦以減徑因弧背餘半之  
得積合問

弧背及圓徑を求む術

術曰弦半冪加矢冪以除矢冪名率置弦名原數而  
乘率二乘名一差乘率四乘名二差乘率六乘名三差四差  
三除各併之得弧背合問

術曰以矢除弦半冪加矢得圓徑合問

評曰田理弧背等の真術者我流祖會田自在先生癸記に  
るころの傳書田理弧背玉積真術と受持とる者あらずに  
容易不會得とる事難只初學者のゆゑ畧法のを用ひ真  
術ある事を知らず故余其内一二を擧て弧背の真術ありと  
をあらわす

地方石盛之部

今上田一町二反五畝有十五の石盛ゆて此高何程と問

答曰高十八石七斗五升

今中田五町三反五畝有十三の石盛ゆて此高何程と問

答曰高六十九石五斗五升

今下田五十五町五反有十一の石盛ゆて此高何程と問

答曰高六百十石〇五斗

今上畑三反五畝六歩有十三の石盛ゆて此高何程と問

答曰高四石五斗七升六合

今中畑二反七畝有十一の石盛ゆて此高何程と問

答曰高二石九斗七升

今下畑一町八反八畝有九ツの石盛あして此高何程と問  
答曰高十六石九斗二升

術曰有る所の畝歩を置乃歩あるとき八畝の石盛法三十まで割る掛けく高を知る

詳曰石盛ふ〇十五〇十三〇十一〇九ツ〇あつく有る事は  
米ある所の石より一十百千万と次第はるが故小石を  
さして一ツとふるり即ち石盛十五る者八十五石より以  
下倣之又反別する所の八町より一十百千万と次第はるが  
故小町をさして一の倍とらん故小一町より付十五石と云事少  
石盛十五と云るなり

反取之部

今上田二町二反有一反少付七斗五升取る時此取米何  
程と問 答曰取米十六石五斗

今中田五町八反有一反少付六斗五升取る時此取米何程

と問 答曰取米三十七石七斗

今下田七畝六歩有一反少付五斗五升取る時此取米何程  
と問 答曰取米三斗九升六合

今上畑八反三畝有一反少付永二百五十文取る時此取永何  
程と問 答曰取永二貫七十五文

今中畑五反五畝有一反少付永二百三十文取る時此取永何  
程と問 答曰取永一貫二百六十五文

今下畑五畝十五歩有一反少付永二百十文取る時此取永  
何程と問 答曰取永百十五文五分

術曰有る所の畝歩を置乃歩あるとき八畝の一反の取米  
及取永を掛けく取米及取永を知る法三十まで割る

評曰惣て東國の物成と反取と云ふれ東國ハ永高  
より今の石高ふる物成と反取と云ふれ東國ハ永高  
つり反取と云ふれ又田方ハ米取り畑方ハ永取りの  
御定法なりと云ふれ又取ると云ふれ假如一反少付上田ハ  
七斗五升中田ハ六斗五升下田ハ五斗五升取ると大法  
なり乃上中下一反少付一斗飛ると又畑方ハ一反少付  
上畑ハ永二百五十文中畑ハ永二百三十文下畑ハ二  
百十文取ると大法なり乃上中下一反少付畑方ハ  
永二十文取ると云ふれ又反取つけ方と云ふれ

釐取之部

今上田一町七反有此石盛十五也釐付五ツの時ハ取米何

程と問 答曰取米十二石七斗五升

今中田三反五畝有此石盛十三也釐付五ツの時ハ取米何

程と問 答曰取米二石二斗七升五合

今下田八反二十四歩有此石盛十一也釐付五ツの時ハ取米何

程と問 答曰取米四石四斗四升四合

今上畑八反有此石盛十三也釐付五ツの時ハ取米何程と問

今中畑五反五畝有此石盛十一也釐付五ツの時ハ取米何程

と問 答曰取米三石〇二升五合

今下畑九畝十二歩有此石盛九ツ也釐付五ツの時ハ取米何程

と問 答曰取米四斗二升三合

術曰有る所の畝歩を置乃歩あると云ふ畝の是ハ石盛を掛

け高を得くと又釐付を掛け取米を知る

評曰惣て上方の物成を釐取ると云ふれ上方ハ貫  
高より今の石高ふる物成と反取と云ふれ上方ハ貫  
つり釐取の名目と云ふれ又上方ハ田畑とも米取の  
御定法なり右釐取と云ふれ假如上田石盛十五と云ふれ

一反の高一石五斗あぐ、釐付五ツの時ハ一反あ付七斗五升取るなり中田石盛十三斗あぐ一反の高一石三斗あて釐付五ツの時ハ一反あ付六斗五升取るなり下田石盛十一斗あて一反の高一石一斗あぐ、厘付五ツの時ハ一反あ付五斗五升取るなり乃一高あてハ二斗あて取米あぐハ一斗あて取るなり然る時ハ反取りの法あても釐取りの法あてくもさうくかひるなり一唯名目の異なる而已

物成之部

今村高二百五十石有物成三ツ五分あて取米何程と問

答曰取米八十七石五斗

術曰村高を置三分五釐を掛け取米を知る

今知行高五百五十石有此取米二百七十五石也物成幾つに

當ると問 答曰物成五ツ五分あて

術曰取米を置知行高を以て割り物成を知る

今四ツ物成あて八箇年の内一箇年ハ凶年あて皆無きも幾ツ物成ふ當ると問

答曰三ツ五分あて

術曰七年と置物成四ツを掛け八箇年を以て割り

三ツ五分を知る

許曰村高又者諸士の録をとりて百石とりの高の事あて取り米あてこれあり 假如五ツ物成とりの高百石あて取米五十石あり故一高を置五分と掛け取米を知るこれするら厘付五ツあり又三ツ五分物成とりの高百石あて取米三十五石あり故一高を置三分五厘と掛け取米を知るこれするら厘付三ツ五分あり他徴之乃一物成とりの前ふる厘付の事よて免とりの事同一事なりを物成するのハ土地の善悪又八年の豊凶は因て一様なる然るも御知行御張紙御直段者御藏米のハ土地の善悪年の豊凶を御平均して物成三ツ五分を以てくはる故に 御張紙御直段者三十五石あ付何十何兩と云ふなり

貫高之部

今三十五万歩の地有此貫高何程と問

答曰貫高三百五十貫

術曰千歩を以て有る所の歩を割り貫高を知る

今三千貫の地有此歩數何程と問

答曰歩數三百万歩

術曰三千貫を置千歩を掛け歩數を知る

許曰我邦往古者貢を収むる戸數高と云ふ抑戸數高とりて何村戸數百五十軒ある則ち高百五十戸と云ふ又二百軒ある則ち高二百戸と云ふなりその后貫高と云ふを貫高と云ふ者の起りハ苗一把を以て一歩は植る然る則ち十歩ハ十把百歩ハ百把千歩ハ千把千把植るなりと云ふは千把植るなりと云ふは千把植るの地を以て一貫と云ふ故に千歩を以て有る地の歩數を割り貫高を知る

永高之部

今高百五十貫の地有此永高何程と問

答曰永高三百貫

術曰貫高を置二を掛け永高を知る

今永二百貫の地有此歩數何程と問

答曰積十萬歩

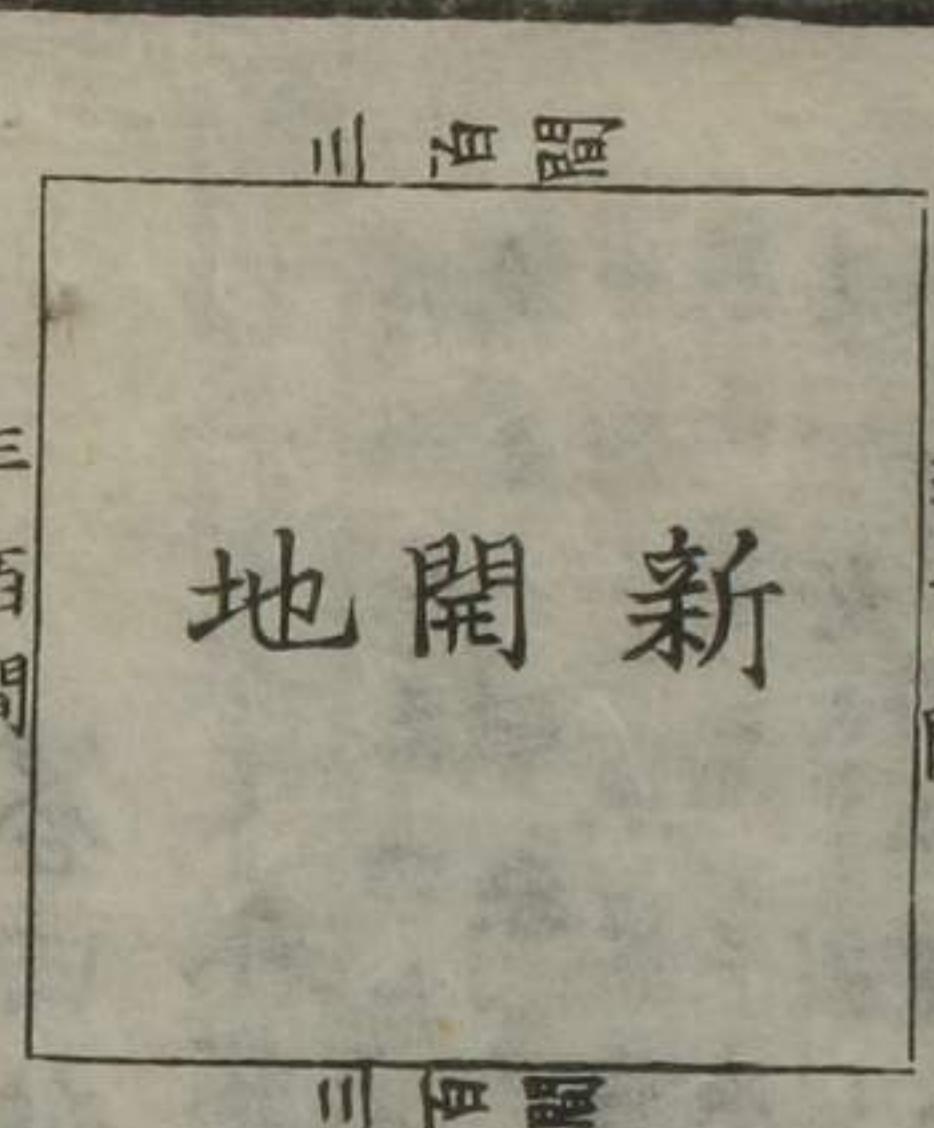
術曰二を以て永高を割り千歩を掛け積を知る

評曰永高の起りハ足利將軍の頃相州鎌倉の浦ノ大明の流船一艘數万貫の永樂錢を積と來りこれより關東の國々へ永樂錢通用して貢を収むるも永樂錢を用ゆ故に貫高を永高と直して用ゆ然るに田畑上中下有て各一様なり仍て一貫の地平均して永樂錢二貫文宛收り故に貫高を置二を掛け永高を得るなり且又永樂錢なるものハ明の永樂年中に鑄り錢なる故に永樂通宝と云ふ



新田開發起源之部

三百間



今圖の如く三百間四方の地を新田に  
開く時者此反別何程と問

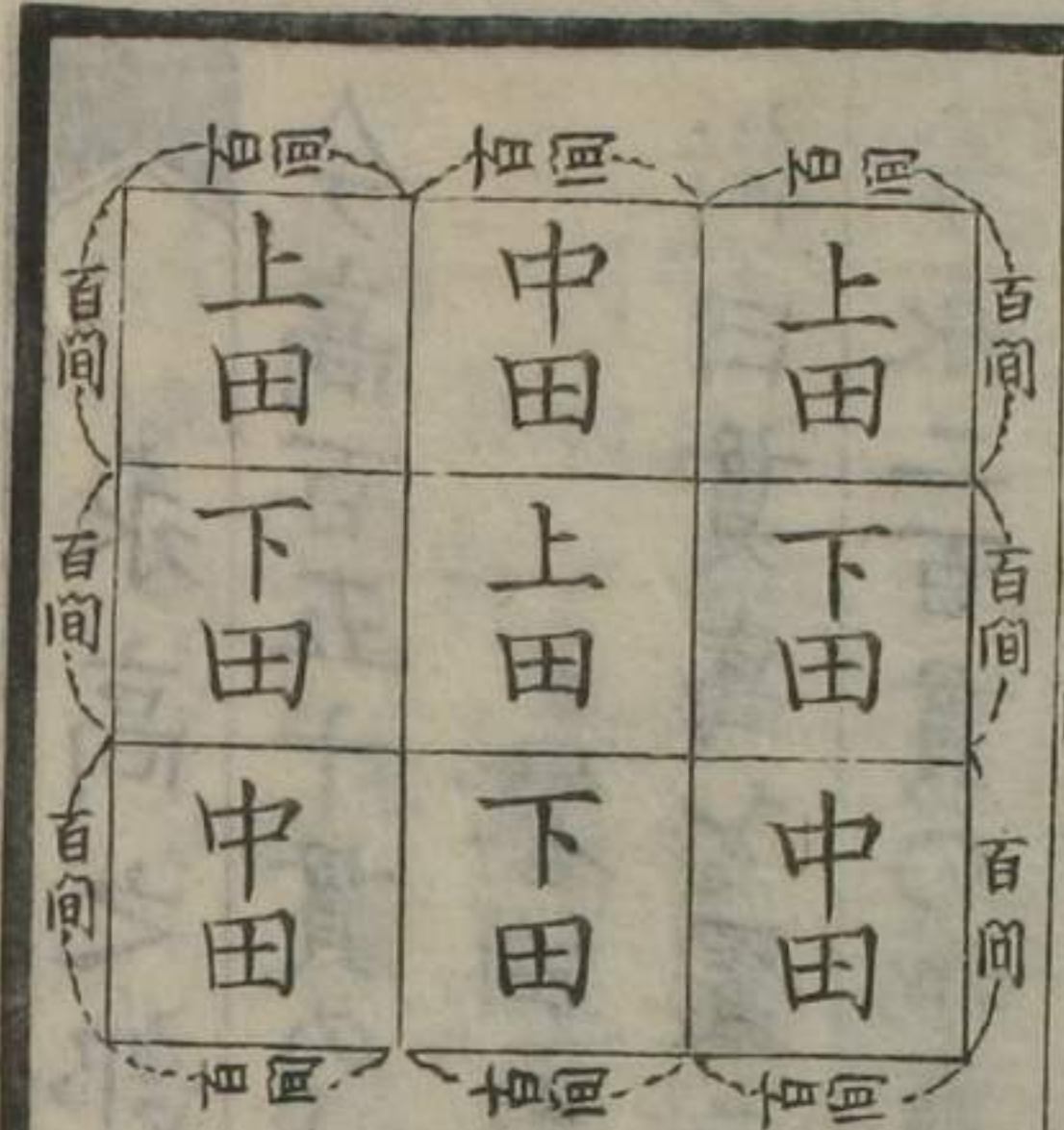
答曰 積九万歩  
反別三十町

術曰三百間を掛け合し積と得是を  
畝の法三十歩よて割り反別を得

今前圖の如く三百間四方の地を新田  
小開く時石盛ハ如何して知ると問

答曰 上田十町石盛十五  
中田十町石盛十三  
下田十町石盛十一

解曰先初て開き耕との砌り込銀下と  
号とこれ土地の位を定むる事也故に



圖の如く土地の善悪を見るに  
間四方の如く土地の善悪を見るに  
三ヶ如く下田なるは九ヶ如く  
間四方なるは九ヶ如く  
上田反別十町中田反別十町下田反別十町  
下田反別十町中田反別十町上田反別十町  
坪蒔とつらつら一間四方の稲と蒔て  
坪蒔とつらつら一間四方の稲と蒔て

上田	中田	下田
同三年目	同三年目	同三年目
坪蒔九合毛	坪蒔七合毛	坪蒔六合毛
同三年目	同三年目	同三年目
坪蒔九合毛	坪蒔七合毛	坪蒔六合毛
同三年目	同三年目	同三年目
坪蒔九合毛	坪蒔七合毛	坪蒔六合毛
同三年目	同三年目	同三年目
坪蒔九合毛	坪蒔七合毛	坪蒔六合毛
同三年目	同三年目	同三年目
坪蒔九合毛	坪蒔七合毛	坪蒔六合毛

而一畝の歩數三十坪と置右三ヶ年合一上田ふるべき  
 地の粉三升を掛け粉九斗と成るを 鋤下三ヶ年と  
 以て割り平均して見ると一ヶ年分一畝少粉三斗  
 とふる是を五合摺おして分米一斗五分と成る故  
 一反少分米一石五斗一町少分米十五石とふる是  
 即石盛十五を知らる中田下田皆倣之志分米と云ハ  
 粉を米不直を故分米と云ハ又土地の善悪を見  
 位を定むる様あり其大畧左小記也

麻田	麥田	上麥田	中麥田	下麥田	上田	中田
下田	下下田	見付田	砂田	惡地	山田	谷田

假如前の如く三百間四方の地新田小間く時ハ高ハ  
 如何して知ると問

答曰 上田十町分米百五十石  
 中田十町分米百三十石  
 下田十町分米百十石  
 總高三百九十石

術曰各坪數を置畝法三十歩少て別々割り反別を得  
 是小別々石盛を掛け各分米を得て合之高を知

物成附大略

一高三百九十石 何村

分米百五十石 上田十町 石盛十五

此坪三万歩 坪蒔粉一升毛

此粉三百石

此公納米七十五石

分米百三十石 中田十町 石盛十三

此坪三万歩 坪蒔粉八合六勺六抄毛

此粉二百六十石

此 納米六十五石

算金北

十一

分米百十石  
下田十町

石盛十一

此坪三万步

坪前初七合三勺三抄毛

此初二百二十石

此 納米五十五石

物成	高免	五ツ		
	反小	上田 七斗五升	中田 六斗五升	下田 五斗五升
如此極也				

解曰 假如上田三万步を置坪前初の初一升を掛け初三  
 百石を得て是を五分の定法四より割り 納米七  
 十五石を知り 中田下田皆倣之  
 術曰 分米和 三百九と以て 納米和 五百九十を割り  
 高に免五ツを知り 反別を以て 納米を別々割り

各反取り紙知る

評曰 土地の善悪 年の豊凶 不因て見込られぬ事 あり各  
 一様なる故に 数年其事を取り 扱ひ 人ふあつたれ  
 委しきる 知れざるものなり 屯井田の法 及び 前記す  
 の法 六公四民の法 四公六民の法 あり 及 前記す  
 どのら 初を五分の定法 四公六民の法 あり 納米を得る者ハ  
 五公五民の法なり 且 又 五公五民の法 あり 者ハ 假如坪  
 前平均して 初二石 あり ときハ 五合摺あして 分米一石  
 ころ 此分米一石を五斗者 納米五斗者 農家へ 下  
 さる 法なり 故に 五公五民の法 と云ふなり 六公四民 四  
 公六民 皆倣之  
 又 五分の定法 四より 者の起りの 假如坪前平均して 初  
 二石 あり ときハ 是を二ツ割り 分米一石と知り 又 分  
 米一石を二ツ割り 納米五斗と知り 故に 此理より  
 因て 初を四ツ割り ときハ 初より 直公納米を知り  
 るなり 初より 直公納米を知り 法の大畧左の  
 ごとし

一公九民法	五釐	又二斗て 割もより
一五公八五民法	七釐五毛	

算蓋也

十八

二公八民法	一分	又八斗七割もよ
二五公七五民法	一分二釐五毛	
三公七民法	一分五釐	
三五公六五民法	一分七釐五毛	
四公六民法	二分	又五斗七割もよ
四五公五五民法	二分二釐五毛	
五公五民法	二分五釐	又四斗七割もよ
五五公四五民法	二分七釐五毛	
六公四民法	三分	
六五公三五民法	三分二釐五毛	
七公三民法	三分五釐	
七五公二五民法	三分七釐五毛	
八公二民法	四分	又二五斗七割もよ
八五公一五民法	四分二釐五毛	
九公一民法	四分五釐	

口米之部

假如本途米三百八十五石の親口米 納口米三升  
口米各何程宛と問

答曰 親口米 十七石五斗  
納口米 五石九斗五升  
三升口米 十一石五斗五升

術曰定法二十二と以て本途米と割り親口米以得る  
是ふ六分六釐を掛け三升口米を知る又親口米は三  
分四釐を掛け公納米を知る

又術曰本途米を置三升と掛け三升口米を知る而  
して前め如く親口米と求む是内三升口米以引  
余り公納口米と云

評曰本途米と云ふは本田新田田畑の取米合し米と  
云ふあり又親口米と云ふのは公納口米三升口米と二様  
あり又其談如何と云ふは三升口米者本途一石  
少斗三升宛公納口米と云ふは本途一石少斗一升五  
合四勺五抄四撮五圭宛なり又六分六釐を掛け  
法二十二へ三升を掛けたる数なり又三分四釐を掛け  
者ハ

一箇の内あく六公六厘と引さる数なり又定法二十二考を候つ而巳

今三升口米十一石五斗五升公納口米五石九斗五升有る時如何して納むと問 假如御張紙三十三兩

答曰 公納口米五石九斗五升 三升口米石代永十一貫八百八十文

術曰御直段へ三兩を加へ是を三升口米小掛け三十五石を以て割り三升口米石代と得る

評曰三升口米ハ御直段三兩増あく代永あて納む故小前術の如く又公納口米者米あて納む故り

三役之部

今高三百石の村有六尺給米御藏前入用御傳馬宿入用各何程と問

答曰 御藏前入用永七百五十文 六尺給米六斗 御傳馬宿入用一斗八升

解曰御藏前入用者高百石あ付永二百五十文宛六尺給米者高百石あ付米二斗宛御傳馬宿入用者高百石あ付米六升宛の御定めなり

術曰定法四百箇を以て村高を割り御藏前入用永と得る是小八斗と掛け六尺給米と知る是小三斗を掛け御傳馬宿入用と知る

評曰三役より者ハ御領所あてハ離さるるものなり然れども私領より御領所不相成る場所ハ異なるなりまきあつたり乃此小物成浮役金より村にあく色に事替る故小畧長又曰太餅初ハ年々御割合を以て納む故小不定也を太餅ハ代永あて納む御直段不定

小切大切米方の部

今納米合三百七十二石六斗有此小切米大切米米方各何程と問

答曰 小切米百二十四石二斗  
大切米八十二石八斗  
米方百六十五石六斗

術曰 三箇を以て納米を割り小切米を得るこれ小  
二と掛け三あき割り大切米を得る是ふ二と掛け米  
方と知る

評曰 小切大切の定法をるゆのハ納米三分之一と小切米とす  
納米の内小切米と引其残米三分之一を大切米と引納  
米の内小切米及び大切米と引余り或米方と引故小前  
術のごとく

今小切米百二十四 大切米八十二 米方百六十五 有各如何  
して納むと問 假如御張紙二十  
六両一步あて

答曰 小切石代永三十貫文  
大切石代永六十二貫百文  
米方俵数四百六十俵

術曰 四石一斗四升を以て小切米を割り小切米石代を  
知る又大切米を置御張紙直段を掛け三十五石にて  
割り大切石代を知る又三斗六升を以て米方を割り  
米方俵数を知る

評曰 小切米者御定直段四石一斗四升の相場あて代永を  
以て納む大切米ハ御張紙直段を以て代永あき納む  
米方者三斗六升俵あて納む故小前の如し

欠米之部

今米方百六十五石六斗有此欠米何程と問

答曰 欠米四石六斗  
俵数十二俵一斗八升

術曰 三斗六升を以て米方を割り一升を掛け欠米を  
知る又欠米を三斗六升あて割り欠米俵数を知る

評曰 欠米をる者ハ納米一俵あて一升宛之故小前の

如く志欠米者船中又ハ藏入るどあく落る候と浦  
御藏少て差戻しあさるる

御普請金上納之部

今高二百五十石の村有此御普請金何程納むと問

答曰納金五兩二歩二朱

術曰村高と置二箇二分五厘と掛けて知る

今御普請金十六兩三步二朱御上納と此村高何程と問

答曰村高七百五十石

術曰二箇二分五釐と以て上納金と割り村高を知る

評曰御普請金御上納ハ年々掛り高と以て納め来る不  
先年五十五ヶ年御平均めて今めてハ高百石少付金二兩  
一歩宛上納と故不前術のごとく

夫銀割之部

假如高五百石の村有内二百石ハ越石三百石ハ村持當年  
村入用銀四百五匁掛ると此村持より越石ハ外二割増  
也して高一石少付銀何程宛不當ると問

答曰高一石少付 越石銀九分  
村持銀七分五厘

術曰二割と置元一と加へ一箇二分と成ると越石二百  
石掛け是ハ村持三百石と加へ五百四十石と成ると  
以て入用銀四百五匁と割り村持一石少付銀七分  
五釐と知る是ハ一箇二分と掛け越石一石少付銀  
九分と知る

假如高四百石の村有内百五十五石ハ入作二百四十  
五石ハ村持當年村入用銀三百三十八匁六分掛ると此

入作より村持ハ外一割五分裏りやして高一石少付  
出銀各何程宛小當ると問

答曰高一石少付入作銀九分二厘  
村持銀八分

術曰一割五分と置元一を加一箇一分五釐と成るを  
入用銀へ掛け実と一別に入作高百五十五石一箇  
一分五釐を掛け是小村持高二百四十五石を加四  
百二十三石二斗五升と成るを以て実を割り入作高  
一石少付銀九分二釐と知る是を一箇一分五釐を以て  
割り村持高一石少付銀八分と知る

評曰夫銀割るものハ村とめて色々に事替る然れ共  
右ニケ條の術意以能く勘辨するといハ余ハ隨々  
得ず一を越石と云ふも入り作といふも各同の異なる而  
已し一は術意に於てハさして替るる事なり然れども越

石と云ふハ他の村より縄受しる地をさうて越石と云ふ  
又其村より縄受の地と他の村へ賣渡し他の村より  
所持するをさうて入作と云ふなり故ふ前の如く術意  
小於てハ替る事なり

納永入用銀割合之部

今 納永二十五貫文有此入用銀十二匁五分掛る然  
る日毎に人数及び納高不等也初の日一人ハ永一貫  
五百文一人ハ永二貫五百文一人ハ永一貫文二日目  
一人ハ永五貫五百文一人ハ永四貫五百文三日目  
一人ハ永二貫五百文一人ハ永二貫文一人ハ永五百文  
四日目一人ハ永二貫文一人ハ永一貫文五日目一人ハ  
永七百五十文一人ハ永一貫文一人ハ永二百五十文  
總て人数十三人より日数五日に皆濟と右入用銀

詳監也

七三



日割みして各出銀何程宛不當りし同

曰 答	
初日乘法	一分 一貫五百文ノ人 銀一分五釐 二貫五百文ノ人 銀二分五釐
二日乘法	二分五 四貫五百文ノ人 銀一分二分三七五 五貫五百文ノ人 銀一分二分三七五
三日乘法	四分七 二貫五百文ノ人 銀一分二分三七五 三貫五百文ノ人 銀一分二分三七五
四日乘法	九分七 一貫五百文ノ人 銀一分二分三七五 二貫五百文ノ人 銀一分二分三七五
五日乘法	二分五 一貫五百文ノ人 銀一分二分三七五 二貫五百文ノ人 銀一分二分三七五

術曰總日數五日と以て入用銀を割り一日分の銀を得て子と名づけ上納永二十五貫文と初日の除法と内初日の納高を引余り二日目の除法と内

二日目の納高を引余り三日目の除法と内二日目の納高を引余り四日目の除法と内四日目の納高を引余り五日目の除法と内初日の除法を以て子を割り初日乘法と二日目の除法を以て子割り是れ初日の乘法を加へ二日目の乘法と三日目の乘法を以て子を割り是れ二日目の乘法を加へ三日目の乘法を以て子を割り是れ三日目の乘法を加へ四日目の乘法を以て子を割り是れ四日目の乘法を加へ五日目の乘法を以て子を割り是れ五日目の乘法を加へ六日目の乘法を以て子を割り是れ六日目の乘法を加へ七日目の乘法を以て子を割り是れ七日目の乘法を加へ八日目の乘法を以て子を割り是れ八日目の乘法を加へ九日目の乘法を以て子を割り是れ九日目の乘法を加へ十日目の乘法を以て子を割り是れ十日目の乘法を加へ十一日目の乘法を以て子を割り是れ十一日目の乘法を加へ十二日目の乘法を以て子を割り是れ十二日目の乘法を加へ十三日目の乘法を以て子を割り是れ十三日目の乘法を加へ十四日目の乘法を以て子を割り是れ十四日目の乘法を加へ十五日目の乘法を以て子を割り是れ十五日目の乘法を加へ十六日目の乘法を以て子を割り是れ十六日目の乘法を加へ十七日目の乘法を以て子を割り是れ十七日目の乘法を加へ十八日目の乘法を以て子を割り是れ十八日目の乘法を加へ十九日目の乘法を以て子を割り是れ十九日目の乘法を加へ二十日目の乘法を以て子を割り是れ二十日目の乘法を加へ二十一日目の乘法を以て子を割り是れ二十一日目の乘法を加へ二十二日目の乘法を以て子を割り是れ二十二日目の乘法を加へ二十三日目の乘法を以て子を割り是れ二十三日目の乘法を加へ二十四日目の乘法を以て子を割り是れ二十四日目の乘法を加へ二十五日目の乘法を以て子を割り是れ二十五日目の乘法を加へ二十六日目の乘法を以て子を割り是れ二十六日目の乘法を加へ二十七日目の乘法を以て子を割り是れ二十七日目の乘法を加へ二十八日目の乘法を以て子を割り是れ二十八日目の乘法を加へ二十九日目の乘法を以て子を割り是れ二十九日目の乘法を加へ三十日目の乘法を以て子を割り是れ三十日目の乘法を加へ三十一日目の乘法を以て子を割り是れ三十一日目の乘法を加へ三十二日目の乘法を以て子を割り是れ三十二日目の乘法を加へ三十三日目の乘法を以て子を割り是れ三十三日目の乘法を加へ三十四日目の乘法を以て子を割り是れ三十四日目の乘法を加へ三十五日目の乘法を以て子を割り是れ三十五日目の乘法を加へ三十六日目の乘法を以て子を割り是れ三十六日目の乘法を加へ三十七日目の乘法を以て子を割り是れ三十七日目の乘法を加へ三十八日目の乘法を以て子を割り是れ三十八日目の乘法を加へ三十九日目の乘法を以て子を割り是れ三十九日目の乘法を加へ四十日目の乘法を以て子を割り是れ四十日目の乘法を加へ四十一日目の乘法を以て子を割り是れ四十一日目の乘法を加へ四十二日目の乘法を以て子を割り是れ四十二日目の乘法を加へ四十三日目の乘法を以て子を割り是れ四十三日目の乘法を加へ四十四日目の乘法を以て子を割り是れ四十四日目の乘法を加へ四十五日目の乘法を以て子を割り是れ四十五日目の乘法を加へ四十六日目の乘法を以て子を割り是れ四十六日目の乘法を加へ四十七日目の乘法を以て子を割り是れ四十七日目の乘法を加へ四十八日目の乘法を以て子を割り是れ四十八日目の乘法を加へ四十九日目の乘法を以て子を割り是れ四十九日目の乘法を加へ五十日目の乘法を以て子を割り是れ五十日目の乘法を加へ

許日地方算術ハ八算見一の術ありてさうて六ヶある術なり然れども国所ふよりて色々事替り取り扱ひ方甚く入りて容易ふ會得る事なり然れ共前記を所の換地より上納永入用銀割手等の術意と能く勘弁するときは他ハ隨て得べし故小學者行餘力以て精勤懈怠する事ある

附り郡内領定法

假如當年御張紙直段金三十二兩の時金一兩少付  
各何程宛ふ當りと同 但前年金一兩少付畑米八一石二斗  
五升大豆八一石五斗蕎麥八一石  
八斗稗八二石  
一斗六升少付

答曰當年

田米一石  
畑米一石三斗  
蕎麥一石八斗七升二合  
稗二石二斗四升六合四勺

術曰御張紙直段へ三兩と加て以て三十五石と割り  
田米金一兩少付一石と知る是に一箇三分と掛け畑  
米直段を知る又前年の畑米を以て當年の畑米を  
割り一箇〇四を得て率とく是前年の大豆と掛け

當年の大豆直段とく又率へ前年の蕎麥と掛け當  
年の蕎麥直段とく又率へ前年の稗と掛け當年の稗  
直段とく

評曰總て郡内領ハ金納多り故ハ御直段三兩増ふ  
して田米と上納せ又畑米ハ田米外三割安めて  
納む他皆本文の如く又三升口斗少て公納は他  
皆前理と推して知るべし

坪直之部

今長九尺幅六尺の地ハ田舎間少くして間坪尺坪何程と同

答曰

尺坪五十四坪  
間坪一坪五分

術曰長九尺へ幅六尺と掛け尺坪と得て是代田舎  
間の法三十六少く割り間坪一坪五分と知る

今長十二間横三尺一寸五分の地ハ中間ありて間坪尺坪  
何程と問

答曰 間坪六坪  
尺坪二百三十八坪一分四釐

術曰長と置横と掛け甲とて是に六尺三寸と掛け尺  
坪と得る又甲と置六尺三寸ありて割り間坪と得る

今長十八間横七尺八寸の地ハ京間ありて間数尺坪  
何程と問

答曰 間坪二十一坪六分  
尺坪九百十二坪六分

術曰長と置横と掛け甲とて是に六尺五寸と掛け尺  
坪と得る又甲と置六尺五寸ありて割り間坪と得る

今尺坪二千三百二坪二釐有中間ありて間坪何程と問

答曰間坪五十八坪

術曰尺坪と置中間の定法三十九步六九ありて割り知る

今京間八百十坪有此尺坪何程と問

答曰三万四千二百二十二坪半

術曰八百十坪と置京間定法四十二二五と掛け知る

今京間十二間有田舎間小直ありて田舎間何程と問

答曰田舎間十三間

術曰京間十二間と置六尺五寸と掛け七丈八尺と成る  
六尺ありて割り田舎間十三間と知る

普請方之部

今土八百十坪と以て田地五反小置時八高ナ何程と問

答曰高廿三尺二寸四分

術曰八百十坪へ六尺を掛け實とく別小三百歩へ五反と掛けて法とく以て實を割り高サを知る

今間口十間奥行二十間の屋鋪地形三尺築上る時土何程入と問 答曰土百坪

術曰間口十間を置奥行二十間を掛け二百坪と成る又三尺を掛け六尺を以て割り土百坪と知る

今幅十二間の所とく田地二反五畝開く時ハ長何程と問 答曰長六十二間半

術曰二反五畝へ三十歩を掛け十二間とて割り知る今十八間四方に深サ一丈五尺掘る時ハ此土幾坪有ると問

附録

今堤有馬踏幅二間と三間鋪六間と八間高廿二間長五十坪此土坪數何程と問 答曰土坪數五百三十

答曰土八百十坪

術曰十八間を掛け合せ三百二十四坪と成る又深サの一丈五尺を掛け六尺とく割り土八百十坪と知る

今堤有馬踏幅二間鋪七間高サ一丈一尺長二百三十間此坪何程と問 答曰坪數千八百九十七坪半

術曰馬踏幅二間へ七間を加へ是に高一丈一尺及び長を掛け實とく別小六尺を倍ゆと一丈二尺と成るを以て實を割り土坪數を得る

今堤有高二間半平均一間根置を知る一尺少月四寸法少く根置と問 答曰根置二間

術曰高二間半を倍ゆて是小法四寸法掛け是に平均

一間因一尺を加一尺を以て割り根置紙知る

今堤有高五間根置八間平均と知る尺一尺小付四寸法  
ゆへ平均と問 答曰平均四間

術曰高五間法四才と掛け倍ゆへ四間と成るを一尺  
少て割り是を以て根置八間の内を引平均と知る

今堤有平均三間根置十一間高を知る尺一尺小付八寸法  
ゆへ高と問 答曰高サ五間

術曰根置十一間の内平均三間と引余り小一尺と掛け  
実と法八才と倍ゆへ一尺六寸と多ると以て実を  
割り高サ五間紙知る

今堤根置九間半平均五間高四間半小築時一尺小付

何寸法ゆへ築き根置と高と相當とと問

答曰五寸法小築く宜し

術曰根置九間半の内平均五間と引余り一尺と掛け実と  
別不高と倍ゆへ九間と成を以て實と割り法を知る

今土三百七十五坪を以て堤を築時長七十五間根置三間平均  
一間ゆへ高何程と問 答曰高二間半

術曰根置へ平均を加へ是小長と掛け三百坪と成を以て  
土坪三百七十五坪を割り一間二分五釐と得是を倍に  
して高二間半と知る

今土四千八百坪を以て堤を築時長二百間平均四間高四間  
ゆへ根置何程と問 答曰根置八間

術曰長を置高を掛け八百坪と成を以て土四千八百坪を  
割り六間と成を倍して十二間を得て此内平均四間以  
引余に根置八間を得る

今土八千七百五十坪を以て堤を築時長二百五十間高  
五間根置十一間ありて平均何程と問

答曰平均三間

術曰長を置高を掛け以て土坪八千七百五十坪を割り七  
間と成を倍して内根置十一間を引余平均を得る

今土四千八百坪を以て堤を築時平均四間高四間根置  
八間ありて長何程と問 答曰長二百間

術曰根置平均の和へ高を掛け四十八間と成を以て土四

千八百坪を割り是を倍ありて長二百間を得る

今土三千坪を以て堤を築時長百五十間高五間ありて  
一尺ふり四寸法りにある時ハ平均根置何程と問

答曰根置六間 平均二間

術曰長百五十間へ高五間を掛け七百五十坪と成を以て  
土三千坪を割り甲と乙を別し高五間へ法四寸を掛け一  
尺ありて割り乙と乙ありて甲乙の和ハ根置とす又  
甲の内乙を引余り根平均とす

今幅六間深一間半の所ありて土八十一坪取る時ハ長何程  
と問 答曰長九間

術曰深サへ幅を掛け九間と成を以て取る土八十一坪を

割り長九間と知る

今長十二間幅六間の所ふく土三十六坪取る時ハ深サ何程  
と問 答曰深サ三尺

術曰長を置幅を掛け七十二間と成を以て取る土三十  
六坪を割り五分と成る六尺を掛け深サと知る

今長十二間深二間の所ふて土三十六坪取る時ハ幅何程  
と問 答曰幅一間三尺

術曰長へ深と掛け二十四間と成を以て土三十六坪と  
割り一間五分と成る五斗六尺を掛けて知る

評曰普請方ハ右ふ載る所の術意ふ因こる時ハ萬術  
異なるるあり

諸色配分之部

今金百五十兩と七分三分ふ分て各何程と問

答曰 三分の方 金四十五兩  
七分の方 金百〇五兩

術曰百五十兩へ三分を掛けく三分の方とん又百五  
十兩へ七分を掛けく七分の方とん

今銀三百三十匁と四つと五つと六つとに分けて各何程  
と問

答曰 四つの方 銀八十八匁  
五つの方 銀百十匁  
六つの方 銀百三十二匁

術曰四五六合して法とく 以て銀三百三十匁を割一ツ  
分銀二十二匁と得是に四つを掛け銀八十八匁と得く  
四つの方とん五つ六つも皆是に同ト

今銀五貫四百目と上下に配分する時上より下ハ内二

割り裏りありて各何程と問

答曰 上取銀 三貫目  
下取銀 二貫四百目

術曰一箇を上の法と一箇を下の法と成と以て銀五貫四百目と  
法と一箇を上の法と一箇を下の法と成と以て銀五貫四百目と  
割り上の取銀と成と以て銀五貫四百目と

今銀九貫七百六十文を上中下三人小配分さる時上より  
次第に内二割裏りありて各取銀何程と問

上取銀 四貫目  
中取銀 三貫二百目  
下取銀 二貫五百六十目

術曰一箇を上の法と一箇を下の法と成と以て銀五貫四百目と  
法と一箇を上の法と一箇を下の法と成と以て銀五貫四百目と  
割り上の取銀と成と以て銀五貫四百目と

得と法と一以て銀九貫七百六十文を割り上の取銀  
四貫目を得る是は小八分を掛け中の取銀と成又は小八  
分を掛け下の取銀と成

今銀一貫百八十文を上中下三人小配分さる時上より  
中八内二割少く又中より下八内三割裏りありて各  
取銀を問

上取銀 五百目  
中取銀 四百目  
下取銀 二百八十目

術曰一箇を上の法と一箇を下の法と成と以て銀五貫四百目と  
法と一箇を上の法と一箇を下の法と成と以て銀五貫四百目と  
割り上の取銀と成と以て銀五貫四百目と

三十一

七十一



と掛け下の取銀と云

今銀七貫二百目と三人ふ配分とる時上より中ハ内二割裏り又上より下ハ内四割裏りゆして各取銀を問

答曰 上の取銀 三貫目  
中の取銀 二貫四百目  
下の取銀 一貫八百目

術曰一箇を上の法と一箇の内四割引六分と成と下の法と一三口合して二箇四分と成を以て銀七貫二百目と割り上の取銀と云是ふ八分掛け中の取銀と云又上の取銀へ六分を掛け下の取銀と云  
今金三十兩を上下ふ配分とる時上より下ハ二兩裏り

ゆして各取金何程と問

答曰 上取金 十六兩  
下取金 十四兩

術曰三十兩へ二兩加へ三十二兩と成を折半して上の取金を得る

今金四十二兩と三人ふ配分とる時上より次第ふ二兩裏りゆして各を問

上取金 十六兩  
答曰 中取金 十四兩  
下取金 十二兩

術曰二兩と三倍して六兩と成る四十二兩を加へ四十

八兩と成ると三人ふ割上の取金とす

今金四十一兩と三人へ配分する時上より中ハ二兩裏り又中より下ハ三兩裏りふして各取金と問

答曰 上取金十六兩  
中取金十四兩  
下取金十一兩

術曰二兩と倍みして三兩を加へ又四十一兩を加へ四十  
八兩と成ると三人ふ割上の取金と得る

今金百三十五兩を甲乙ふ配分する時甲より乙ハ内  
二割増みして甲乙取金何程と問

答曰 甲取金六十兩  
乙取金七十五兩

術曰一箇を甲の法と一内二割引八分と成るとこの

法と二口合して一箇八分と成ると以て金百三十五兩  
ふ因八分と割り上の取金と得る

今金百八十兩を甲乙ふ配分する時甲より乙ハ外二  
割半裏りふして各何程と問

答曰 甲の取金百兩  
乙の取金八十兩

術曰一箇を甲の法と一是を一箇二分五厘と以て  
割り八分と成るとこの法と二口合して一箇八分を得て  
以て百八十兩を割甲の取金百兩と得る

今金百八十二兩を甲乙丙ふ配分する時甲より乙ハ  
外二割増みより丙も外二割増みして各取金何程  
と問

答曰 甲取金五十兩  
乙取金六十兩  
丙取金七十二兩

術曰一箇を甲の法と一是は二割を加へこの法と一  
是は一箇二分を掛け丙の法と一三口合して三箇六  
分四厘と成を以て百八十二兩を割甲の取金とと  
今内二割裏り外何割増ふ當ると問

答曰外二割半増

術曰八分を以て一箇を割り知る

今外二割増ハ内何割裏りふ當ると問

答曰内一割六分六釐六毛余

術曰一箇二分を以て二分を割り知る

配分積之部



今横二十一間縦六十間の直屋鋪の内へ図の  
如く幅三間の道を開き其残積三等分配  
分する時子丑寅等分積何程と問

答曰 子十八間 丑四十二間  
寅九間 等分積三百七十八歩

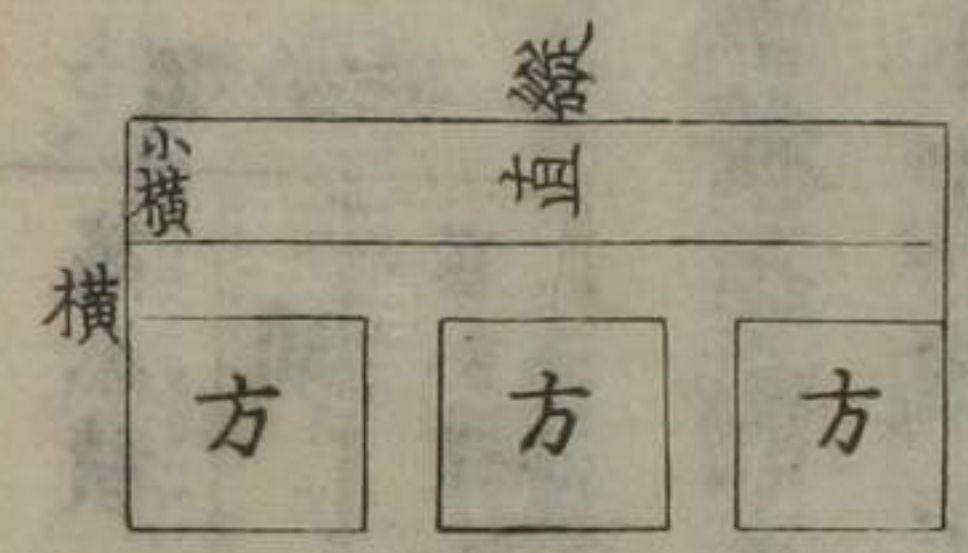
術曰横の内道幅を引甲と一是は横を倍めして加へ以て  
甲ふ因縦を割り子を得る

今横十六間長二十五間の直屋鋪の内  
へ図の如く幅二間の曲尺道を開き其残  
積三等分に配分する時子丑寅等分  
積何程と問



術曰横と三倍して内道幅と引余法と以別小長の内道幅と引余小横と掛け是と倍して法めて割り子得る

答曰 子十六間 丑七間 寅七間  
等分積百十二歩

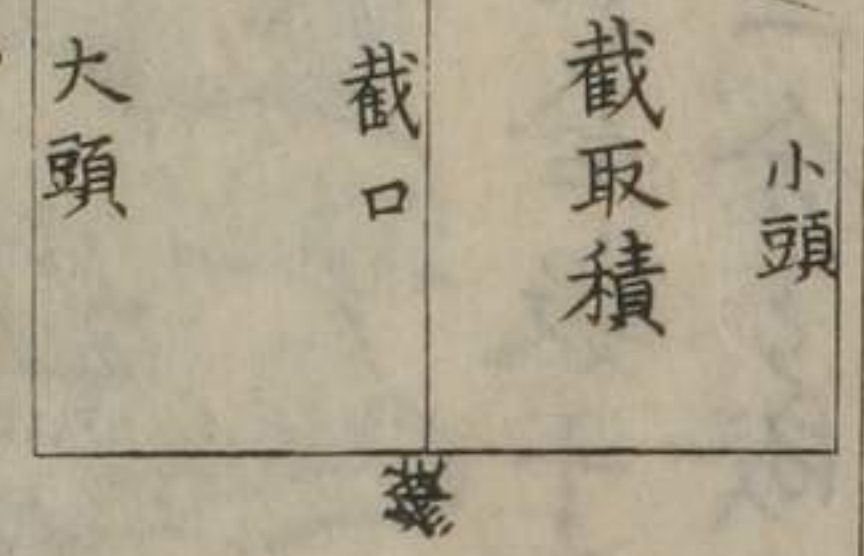


今横百三十二間縦三百間の直屋鋪の内へ圖の如く道を用き但道幅各等し其残積四等分小配分する時ハ各何程と問

答曰 三ヶ所九十間四方 一ヶ所横二十七間 道幅各一十五間

術曰縦の内横二と引余小縦と掛け是と八倍して以て縦畧の内と引余平方間き縦と加へ是と四みく

割り方面を得る



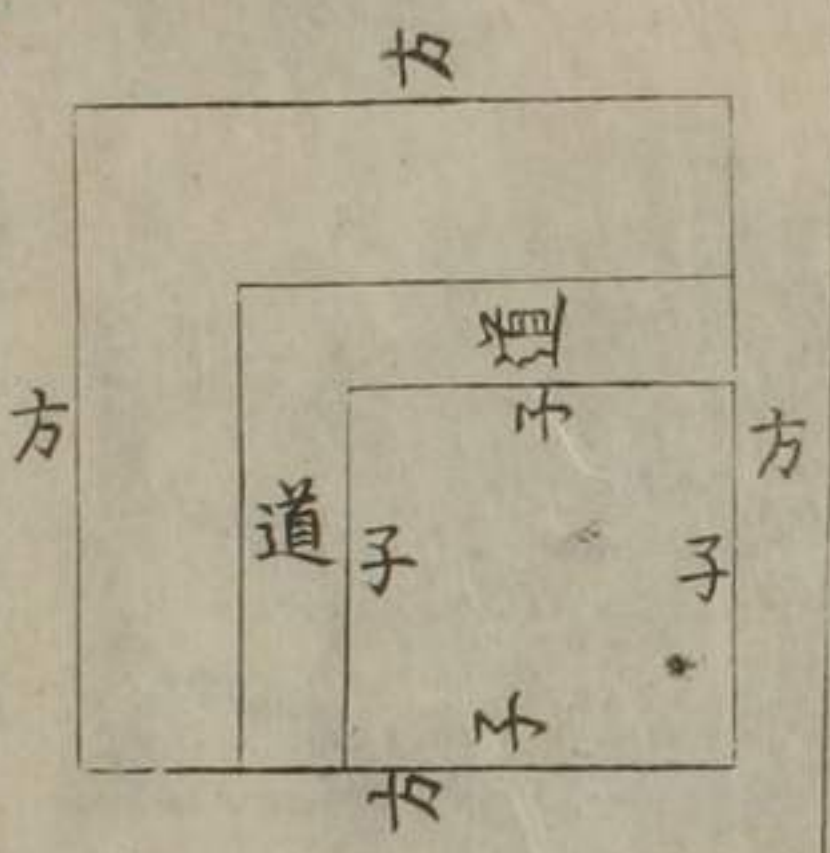
今半梯有大頭六間小頭二間縦八間小頭の方めて積十二歩截取する時ハ截口何程と問 答曰截口四間

術曰截取積と倍して是に大小頭差を掛け縦と以て割り小頭畧と加へ平方小間き截口と得る

今二十五間四方の屋鋪の内へ幅五間の曲尺道と圖の如く用き其残積等分小配分する時ハ各何程と問

答曰 子十五間 等分積二百二十五歩

術曰二十五間と掛け合へ是と倍して内道幅畧と



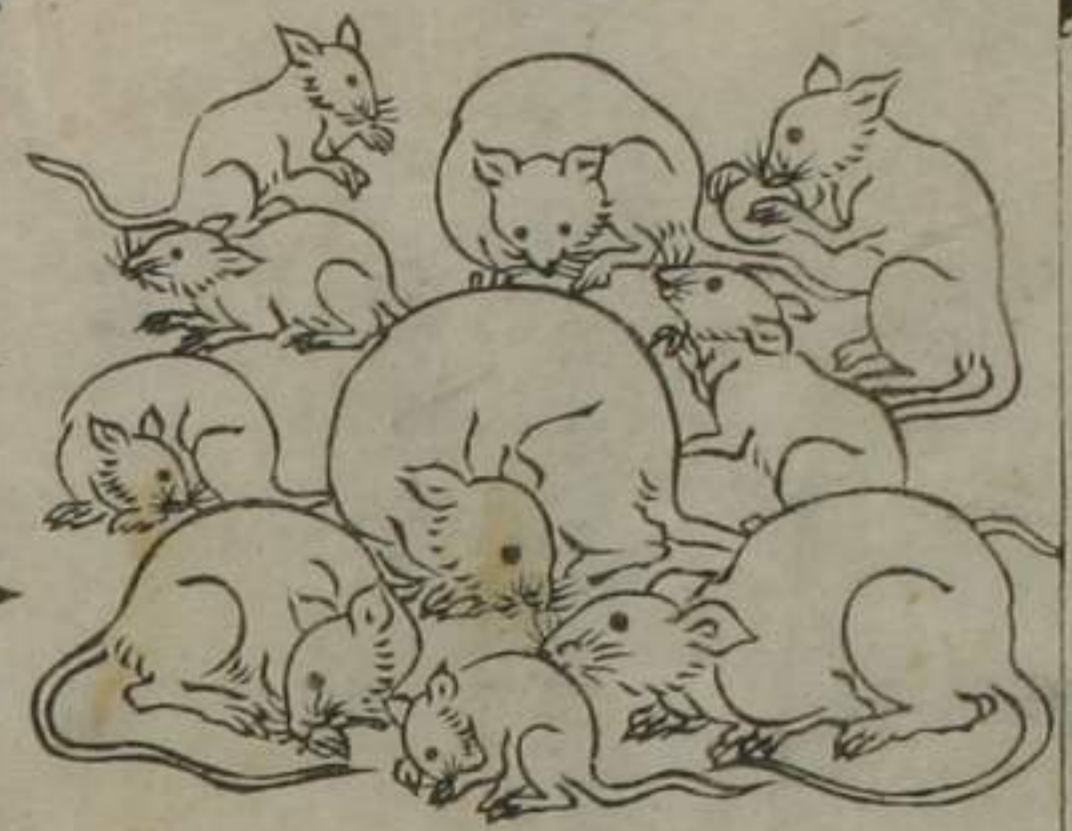
引余りと平方に開き内道幅と引余り紙折半して  
子と得く是と自して等積と得る

差分之部

今親子の鼠合て十五疋来て米六升三  
合蝕ふ乃親鼠ハ一疋毎に米五合蝕ふ  
子鼠ハ一疋毎に三合蝕ふ親子の鼠幾  
疋宛と問

答曰 親鼠 九疋  
子鼠 六疋

術曰合数十五疋へ五合を掛け内六升三合を引余り  
一升二合と成と實とく 別ハ五合の内三合を引余り二  
合と成と以て實と割り子鼠六疋と知る



今桃六箇と梨九箇とを代錢六十三文小買時梨より  
桃ハ一箇少付二文安し各一箇少付直段何程と問

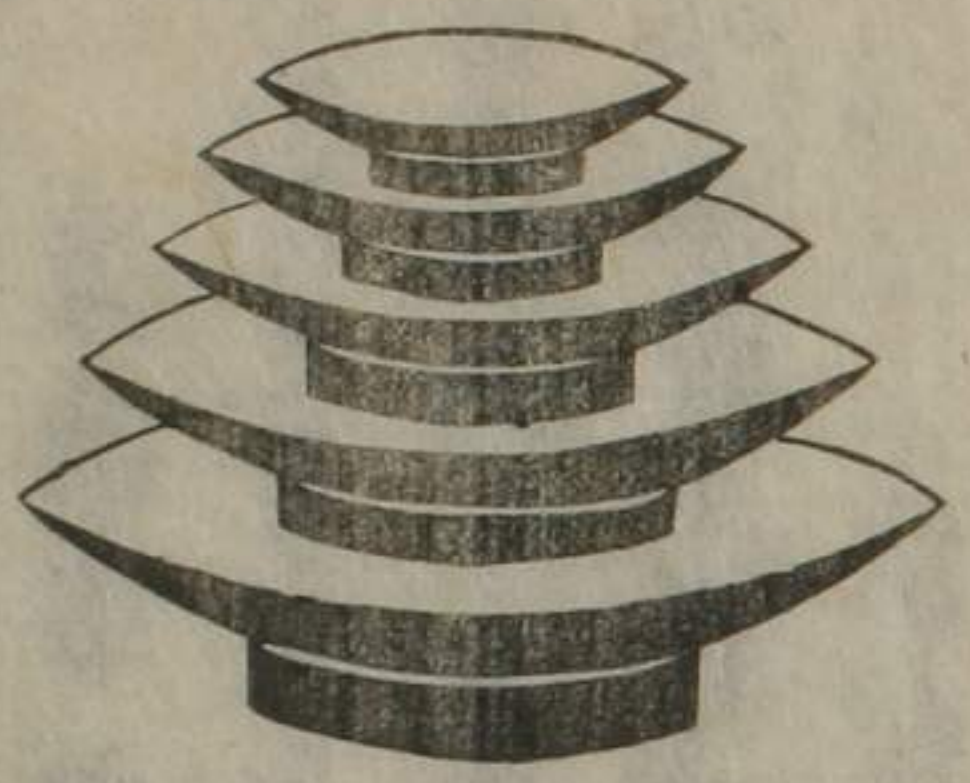
答曰 桃一箇少付 代錢 三文  
梨一箇少付 代錢 五文

術曰桃六箇へ二文を掛け是ハ六十三文を加へ實とく  
別ハ桃六箇梨九箇合し以て實と割梨一箇の代と得

今五ツ組の盃有是小入る酒二升七合  
五勺乃大より小ハ次第小一合表り也  
各入り何程と問

答曰 第一 七合五勺 第二 六合五勺  
第三 五合五勺 第四 四合五勺  
第五 三合五勺

術曰盃数五ツと以て二升七合五勺を割り第三の入り



五合五勺を得る是は妻の一合と加減して各を得る

盈朒方程之部

今商人集り絹と買有る其絹数及び銀高を知れば絹一疋  
み付銀四十五匁宛ふ買時ハ銀五匁不足也又一疋み付銀  
四十匁宛ふ買時ハ銀十匁余る絹数何程と問

答曰絹数三疋 銀高百三十匁

術曰余りと不足と和して十五匁と成て實とて別ふ  
初に買四十五匁の内後に買四十匁と引余五匁と成て  
以て實と割絹数三疋と得是に四十匁を掛け余る  
十匁を加て代銀とん

今童子集りて柿を分る有る其人数及び柿の数を知れば

一人毎に七つ宛取れば柿十一余る又八つ宛取れば柿四つ  
余る人数何程と問

答曰人数七人 柿数六十箇

術曰初余十一の内後余四つを引余る七つを實とて又  
別に後か八つの内初分る七つを引余る一つを以て實と割  
人数七人を得る

今童子集りて桃買ふ有る其桃数及び錢高を知れば一ツ  
み付九匁宛ふ買時ハ十六匁不足又一ツみ付七匁宛ふ買  
時ハ四匁不足桃数及び錢高を問

答曰桃数六箇 錢高三十八匁

術曰初不足の内後の不足を引余十二匁と成て實とて

別小初買九文の内後買七文と引余二文と成を以て  
實と割桃六箇と知る

今柿八箇梨四箇あり此代錢合八十文又梨一箇乃  
代錢小錢二十八文添て柿四箇を買ふ各一箇の代錢  
何程と問

答曰 柿一箇代錢八文  
梨一箇代錢四文

術曰柿四箇小梨四箇を掛け十六箇と成之柿八箇を  
加へ法と別小添る錢二十八文を置梨の四箇を掛け  
百十二文と成之代錢八十文を加へ錢百九十二文と成  
と法を以て割柿一箇の代錢八文と知る

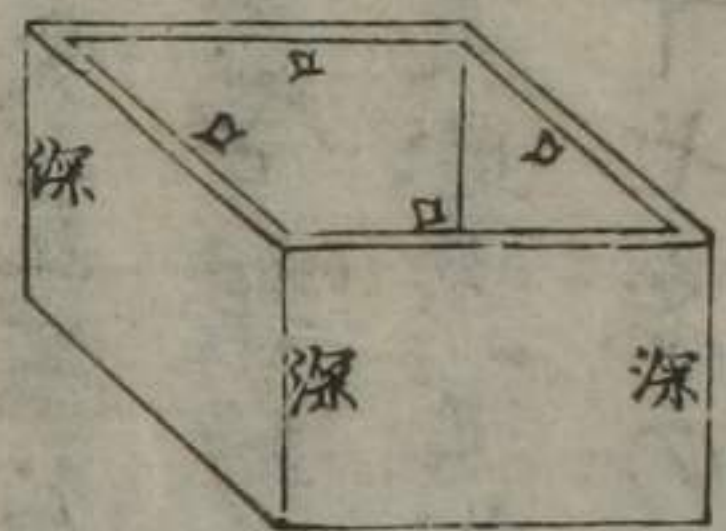
今米大豆有米三石大豆二石此代銀合百五十一文又

米一石大豆五石此代銀合百三十七文あり各一石の代銀

何程と問  
答曰 米一石代銀三十七文  
大豆一石代銀二十〇文

術曰初代銀へ後の大豆五石を掛け七百五十五文と成  
内後の代銀へ初大豆二石を掛け二百七十四文と成を  
引余り四百八十一文と成を實と別小初米三石へ  
後大豆五石を掛け十五石と成内初大豆二石へ後米  
一石を掛け二石と成を引余り十三石と成を法と  
以て實を割り米一石の代銀を知る○後の代銀百  
三十七文の内米一石の代銀三十七文を引余り百文  
と成を大豆五石あり割り大豆一石の代銀を知る

立坪詰之部



今箱有口径各一尺四寸七分深八寸一分此箱ふ米何程入ると同

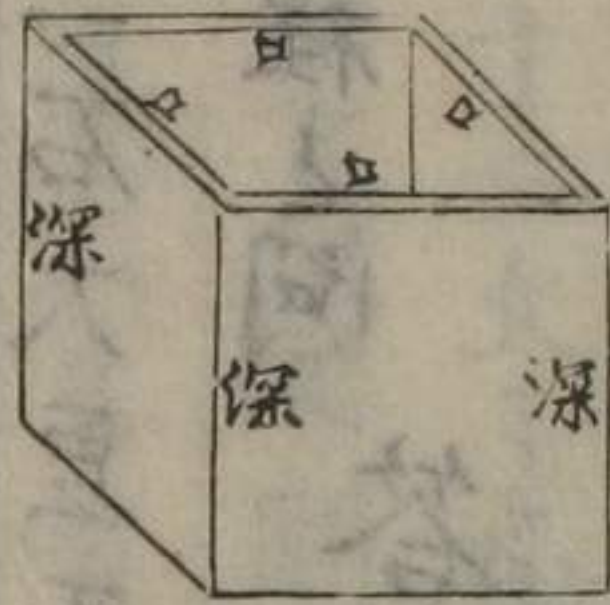
答曰箱入米二斗七升

術曰口径一尺四寸七分と掛け合し是  
小深八寸一分と掛け寸立坪千七百五十坪三分二厘九  
毛と得て枳法六十四坪八二七みく割り入枳を知る

許曰入枳と得るゆのハ立坪詰めて其坪を求めて后ら枳法  
めて割り入枳と得る故ふ后ら畧之

今立方の箱有口径各六尺深六尺寸立  
積何程と同

答曰寸立積二十一万六千坪



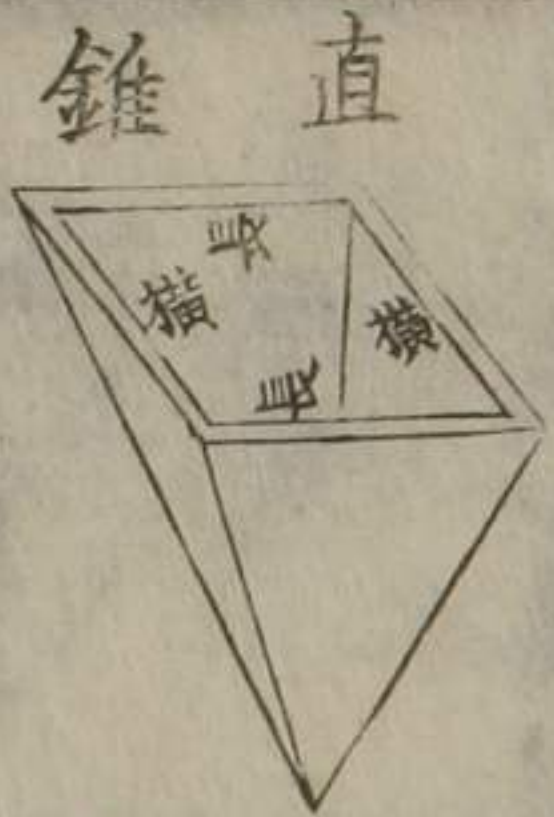
術曰口径を置再び掛け合して立坪と得る



直箱  
横三寸  
長五寸  
深九寸  
答寸立積一百三十五坪

術曰横を置長

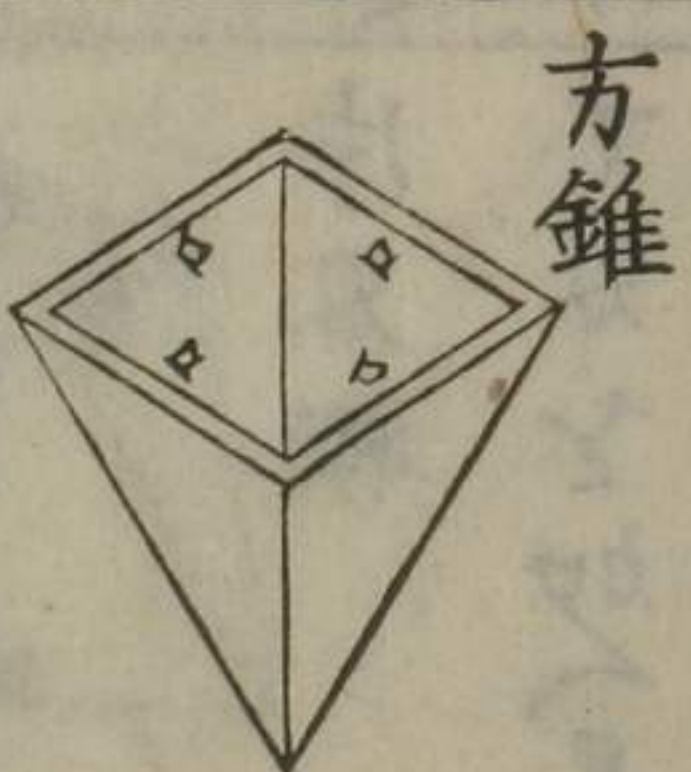
及び深を掛け寸立積と得る



直錐  
横三尺  
長四尺  
深九尺  
答寸立積三万六千坪

術曰横を置長及び深を掛け  
錐法三めて割り立積と得る

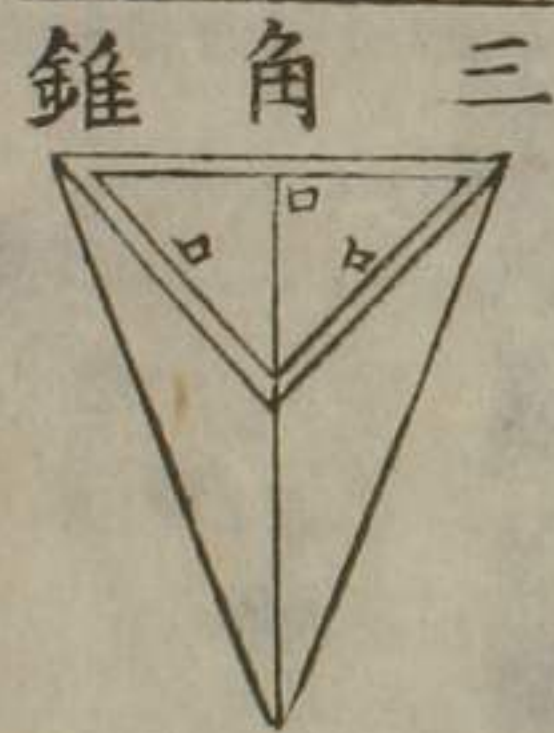
蓋也



方錐  
口径各四尺  
深九尺

答寸立積四万八千坪

術曰口径を掛け合し是に深と  
掛け是と錐法三と以て割り  
寸立積と得る



三角錐  
口径各五尺  
深九尺  
積率四分三三を用  
答三万二千四百七十五坪

術曰口径を掛け合し是に深  
及び積率と掛け錐法三と  
割り立積と得る

九七





直楔形

及び高と掛け折半して得る

横二寸  
長三寸  
高五寸

答立積十五坪

術曰横と置長



直楔形

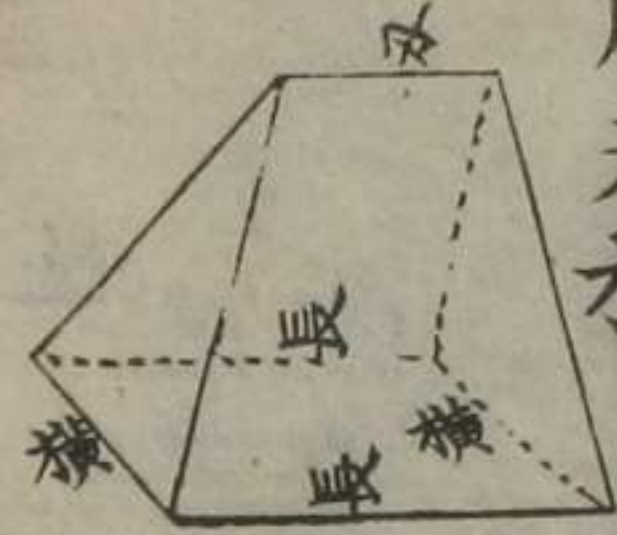
及び高と掛け折半して得る

横二寸  
長五寸  
高六寸

答立積三十坪

術曰横と置長

片双楔

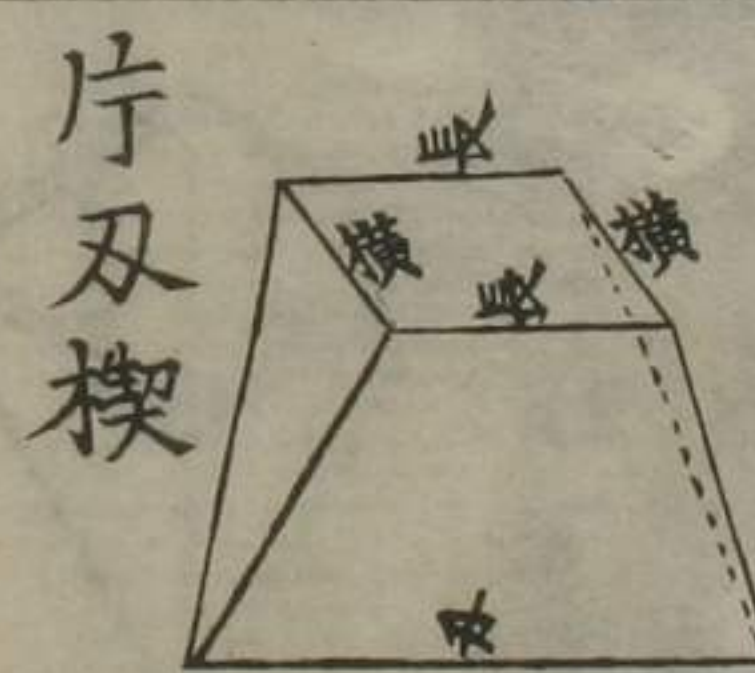


横二寸  
長五寸  
高六寸

答積二十六坪

術曰長と倍して

双を加へ是に横及び高を掛け六めて割り立積を得る



片双楔

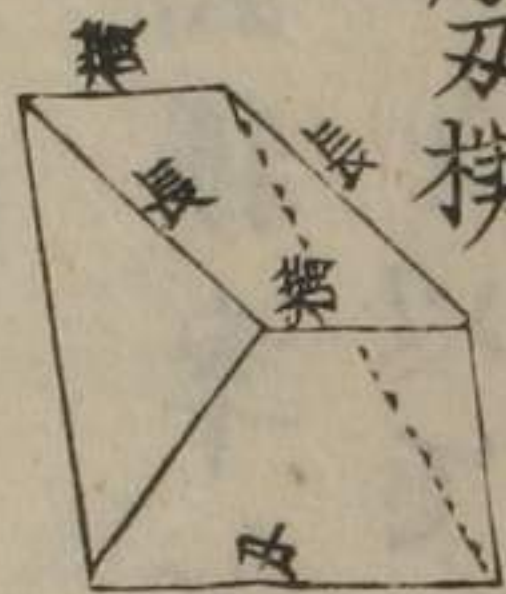
て双を加へ是に横及び高を掛け六めて割り立積を得る

横三寸  
長五寸  
高八寸

答積五十四坪

術曰長と倍して

片双楔



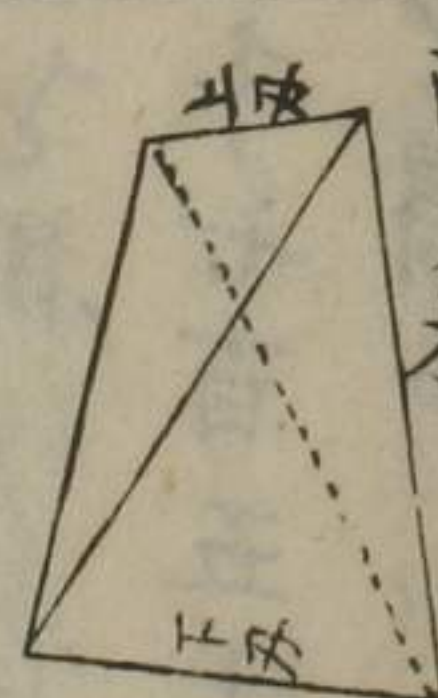
横三寸  
長五寸  
高八寸

答立積七十坪

術曰横と倍して双を加へ

長及び高を掛け六めて割り得る

两双楔

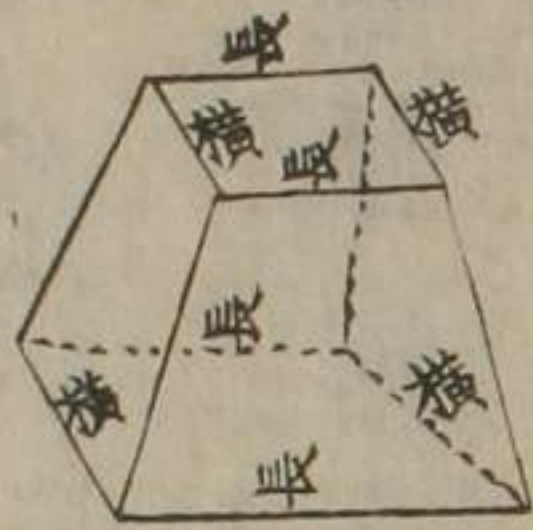


上双三寸  
下双四寸  
高六寸

答立積十二坪

術曰上双と置下双及び高を掛け六めて割り立積を得る

直臺



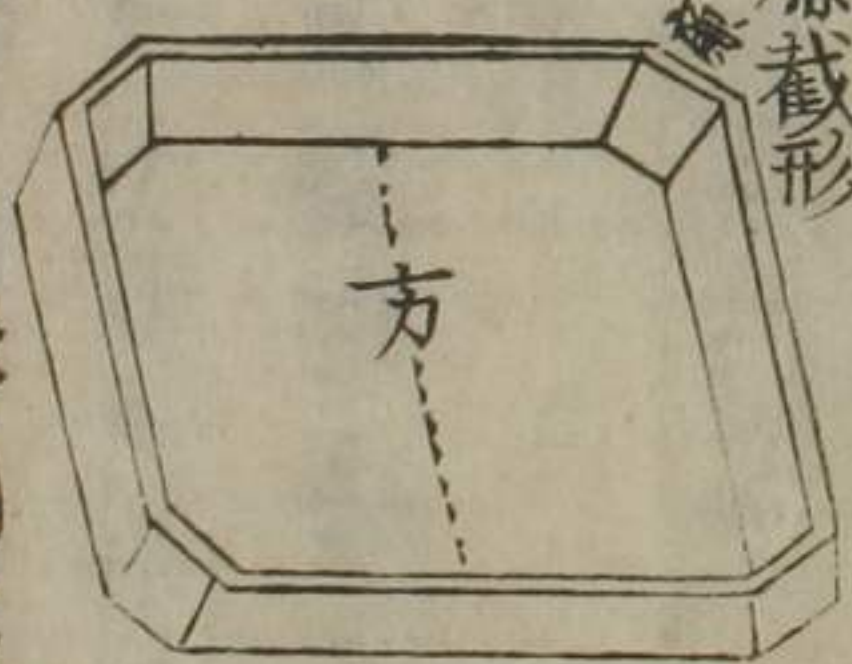
上長五寸  
下長八寸  
高各六寸

答立積七百坪

術曰上長へ下

長を加へ是を横及び高を掛け折半して立積を得る

廉截形

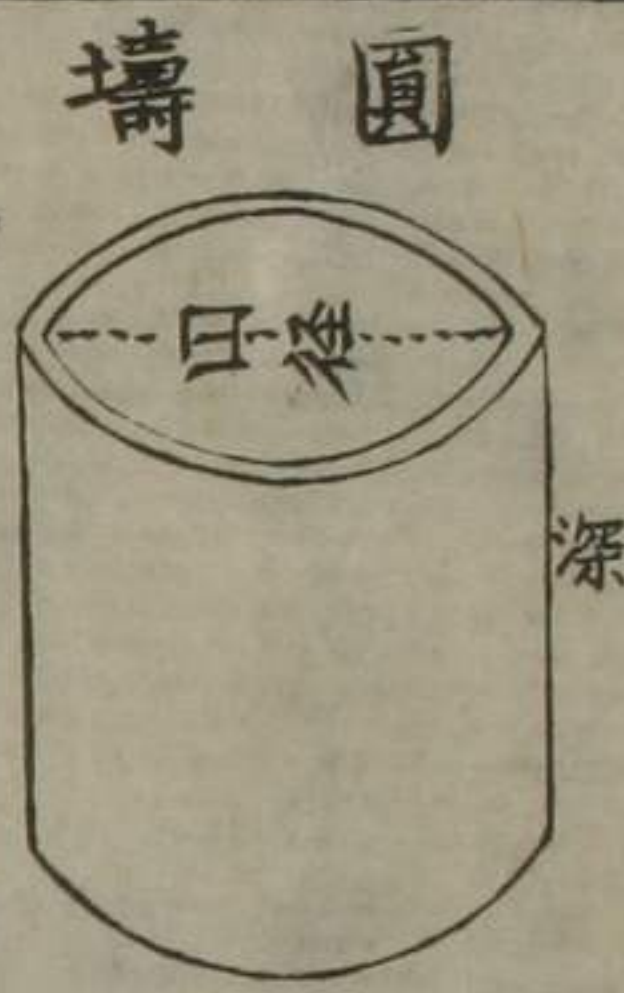


方八寸  
廉面二寸  
深二寸

答積百二十坪

術曰方を掛け

合一此内廉面昇を引余に深を掛け立積を得る



圓積率を掛け立積を得る

圓徑五尺 深九尺

圓積率七分八釐五毛を用ゆ

答曰立積十七万六千六百二十五坪

術曰圓徑を掛け合し是より深及び



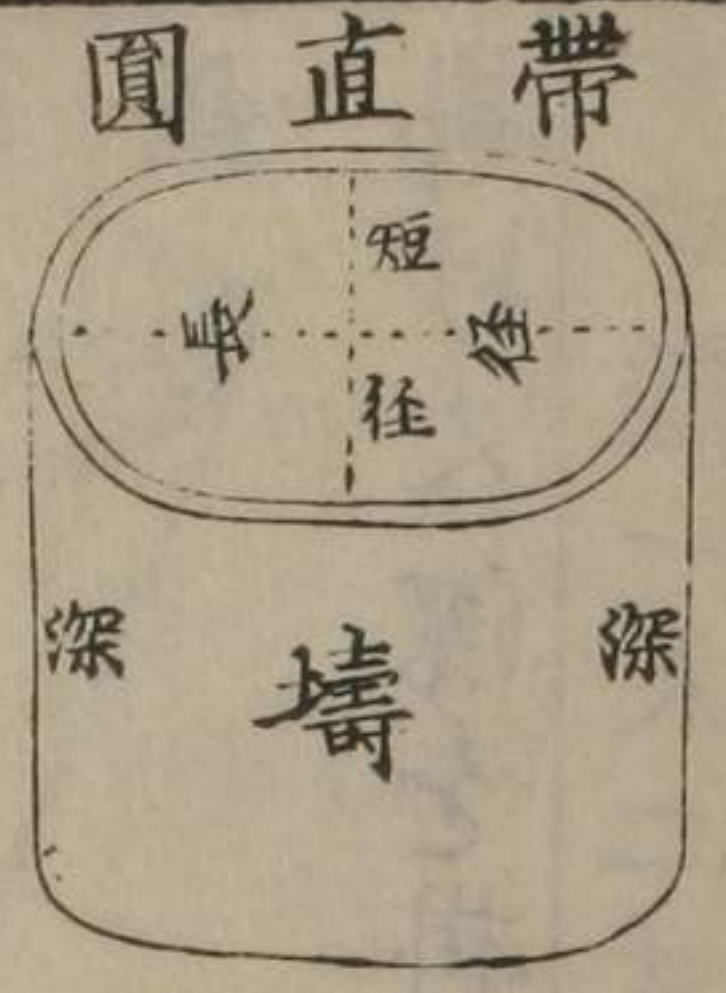
圓積率を掛け十一万七千七百五十坪と成る錐法三を以て割り寸立積を得る

圓徑五尺 深六尺

圓積率前と同ト

答曰立積三万九千二百五十坪

術曰圓徑を掛け合し是より深及び



帶直圓 長徑八尺 短徑五尺 深九尺

圓積率前と同ト

答曰立積三十一万六千六百二十五坪

術曰圓積率を置短徑を掛け是に長

徑短徑の差を加へ又短徑及び深を掛け立積を得る

長徑八尺 短徑五尺 深九尺

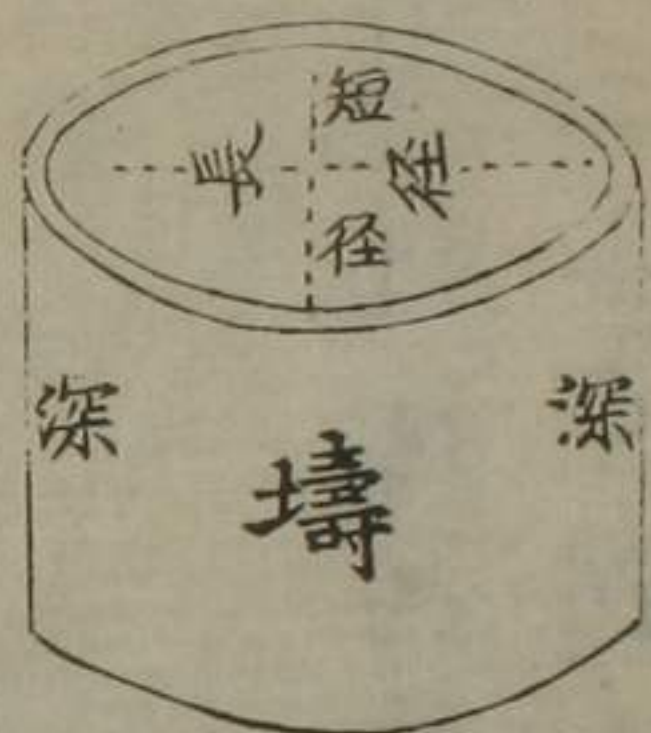
圓積率前と同ト

答曰立積十万三千八百七十五坪

術曰圓積率を置短徑を掛け是に長徑短徑の差を加へ又短徑及び深を掛け是を錐法三より割り寸立積を得る



圓側



け又は小深を掛け立積を得る

長徑五尺 短徑四尺 深六尺

圓積率前不同ト

答曰立積九万四千二百坪

術曰圓積率を置長徑及び短徑を掛

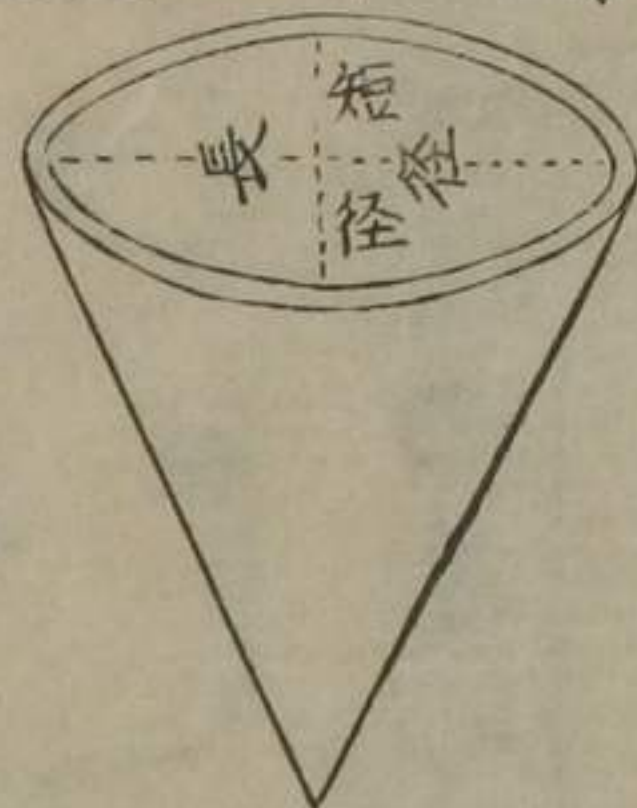
長徑五尺 短徑四尺 深六尺

圓積率前不同ト

答曰立積三万千四百坪

術曰圓積率を置長徑及び短徑を

錐圓側

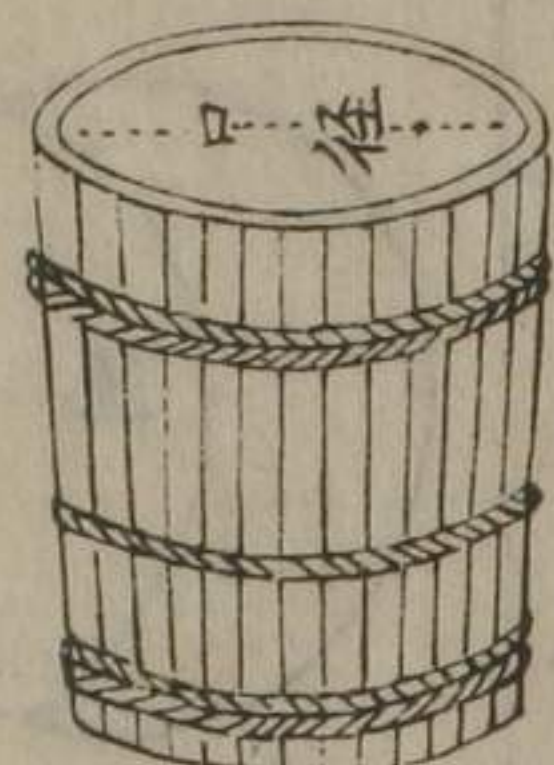


掛け又深を掛け是を錐法三めて刻り立積を得る

口徑一尺二寸 底徑八寸 深六寸

圓積率前不同ト

桶



桶

答曰立積四百七十七坪二分八厘

術曰口徑を置底徑を加へ是を掛け合

四百坪と成る内口徑と底徑を掛け合

九十六坪と成るを引余三百四坪と成る

深サ及び圓積率を掛け錐法三めて刻り立積を得る

口徑各五寸 底徑各三寸 深六寸

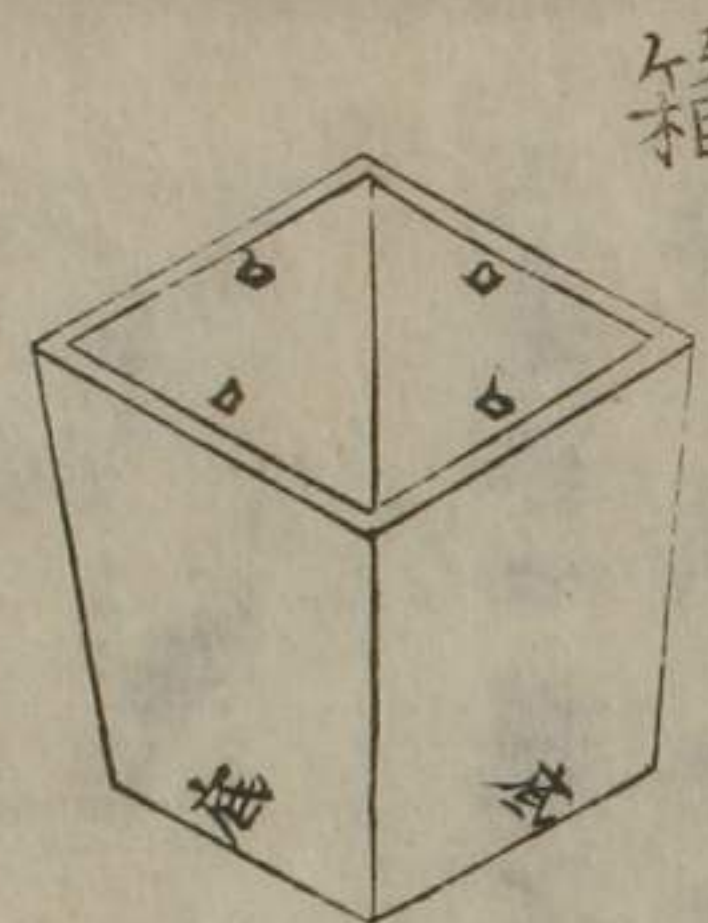
答曰立積九十八坪

術曰口徑五寸を掛け合へ二十五と成る

を甲と底三寸を掛け合へ九と成るを

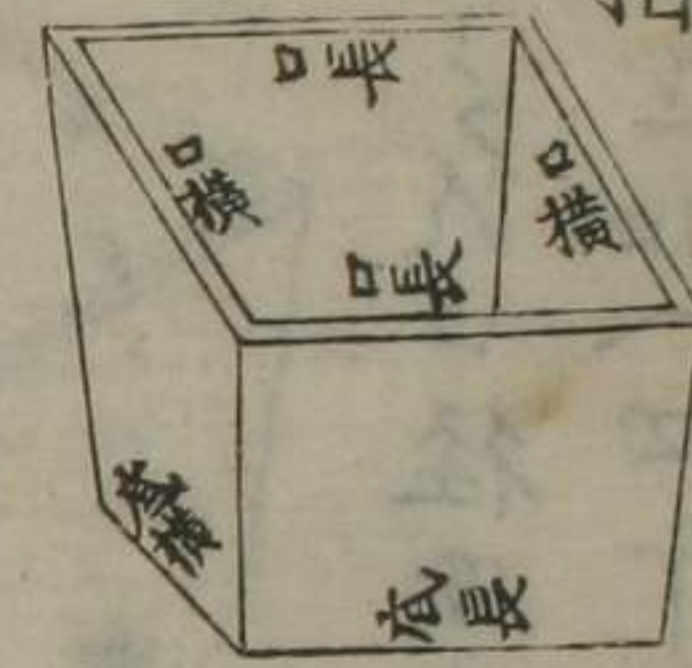
乙と口徑五寸と底三寸を掛け合へ十五と成る是を甲及

乙を加へ四十九と成へ深を掛け錐法三めて刻得る

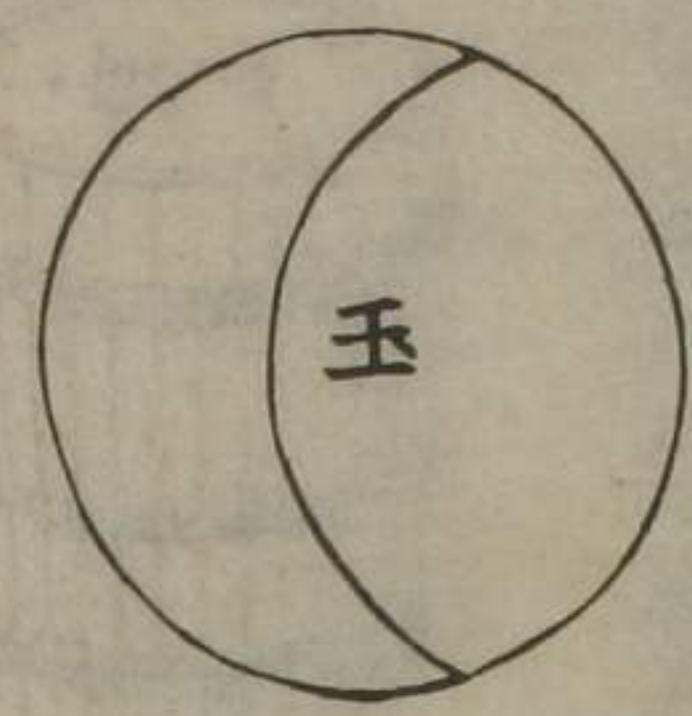


箱

箱



口横四寸口長九寸底横三寸底長五寸深六寸  
 答曰立積百四十九坪  
 術曰底長を倍して口長を加へ是れ底横を掛け甲とし又口長を倍して底長を加へ是れ口横と掛け是れ甲を加へ又深を掛け八百九十坪と成るを六みく割り立積を得る



玉径一尺五寸 玉積率五分二三六用ゆ  
 答曰立積千七百六十七坪一分五  
 術曰玉径と置再び掛け合へ是れ玉積率を掛け立積を得る

算鑑童蒙知津卷之地畢

